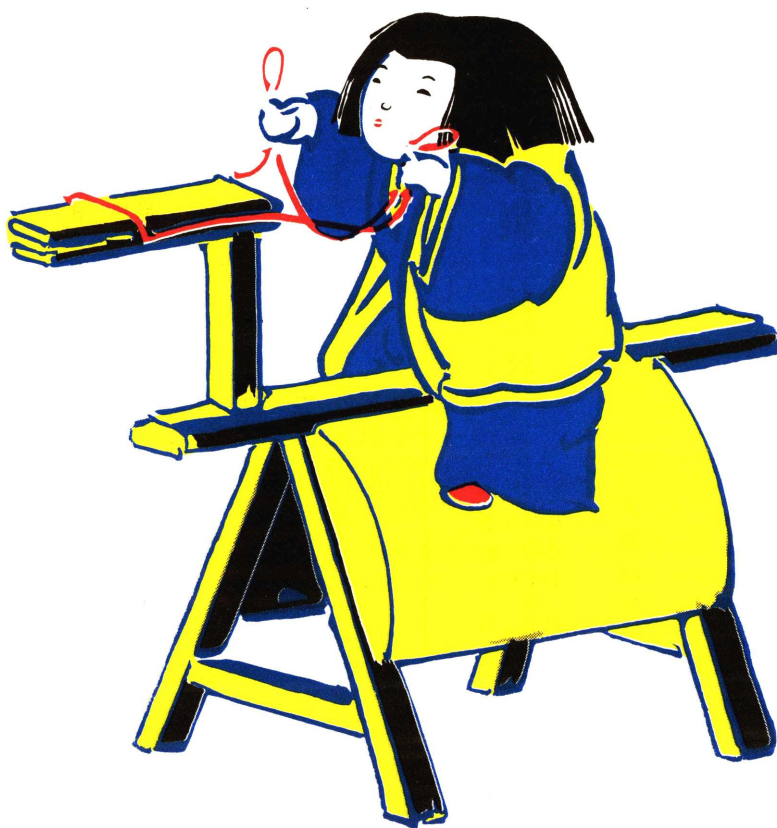


幼見之教育



號五第 號月五 卷二十四第

內校學範師等高子女京東

會協園稚幼本日

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (五版)

改訂 系統的保育案の實際 增補

定價 金壹圓參拾錢 送料 金 六 錢

初版以來廣く參考の資料とせられた本書は、時局下幼兒保育の再認識と、特に國民學校の新制に對する用意の必要とから到底舊版のまゝに止まることを許されなくなりました。全體に互る改訂と増補を以て茲に此の新版を供する次第であります。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

日本幼稚園協會編

幼稚園唱歌選集

幼兒の教育 (月刊)

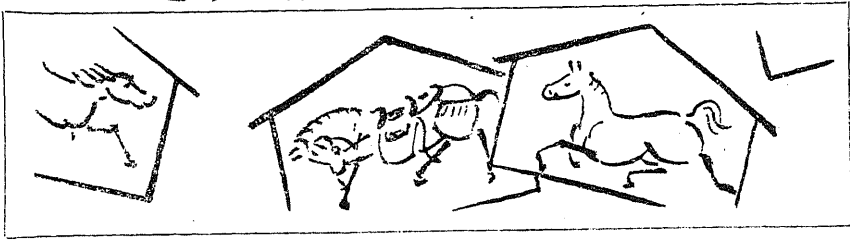
菊版三五〇頁 定價金壹圓五拾錢
送料 市内 金 六 錢
地方・北海道・臺灣・朝鮮・滿洲 金 拾 五 錢

B列四號五〇頁

定價金壹圓七拾錢
送料金 拾 貳 錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料 共

大東亞戰爭必勝完遂



第四十二卷 幼兒の教育 第五號

目次

戰時國民幼稚園(四).....	倉橋惣三(一)
誌上 國民學校理科の實際(その五).....	堀七藏(三)
教養 講座 萬葉に於て日本の感情を見る(五).....	石井庄司(七)
教育者としての保姆(二).....	倉橋惣三(二)
六月の保育	
生活訓練.....	倉橋惣三(七)
自由遊戯.....	上遠文子(八)
遊戯.....	古澤靜子(三)
觀察.....	清水光子(五)
談話.....	安村ふさ(七)
手技.....	及川ふみ(元)
誘導保育.....	菊池ふじの(三)
六月の園藝.....	大岩金(五)
各地幼稚園 三原女師幼稚園・岡山市立託兒所	山岡幹枝(毛)
だより 三原女師幼稚園・岡山市立託兒所	折井彌留枝(毛)
誌上 兒童心理學(四).....	牛島義友(翌)
講習 兒童心理學(四).....	牛島義友(翌)
月刊「幼兒の母」に就て.....	(五)
幼兒の母.....	(五)

母の大東亞知識(題言)——幼稚園から——保育といふこと(倉橋惣三)——子供向
 きお菜(佐々木理喜子)——五月の衛生(齋藤文雄)

成鍊技手

みどり幼稚園長 森本泉二著

兒童書に新しい分野を開拓せる教本。決戦下第二國民鍊成への意圖を手技と物語と遊び方の同化を以つて興味深く盛り、あらゆる意味に於いて一億國民に捧げられた名著。幼稚園の保姆、國民學校の教師、家庭の父母の座右、及び兒童の机上に是非一本をすむ。

第二輯 防空戦と兵器の作り方

頗る美本、箱入、5A判
寫眞圖解百八十葉入
一八〇頁、價一・八〇

附手技教室十二ヶ月

第一部 防空戦競技の仕方と防空のお話
急降爆撃機及爆弾、高射砲、聽音機、照空燈、消防自動車、軍用トラック、快速艇、軍用機關車、軍用貨車、燈下管制のお家等の作り方
第二部 一月大角力、二月手技手品、三月面子落し、四月紙萬華鏡、五月龍おどり、六月紙双眼鏡、七月七夕祭、八月海水浴、九月兎と總さん、十月花傘風車、十一月お金入れ、十二月防空戦準備双六等の作り方とお話

第三輯 五大海戦と艦船の作り方

森本泉二著
|| 近刊 ||

附海空軍の作り方

第一部 日本の五大海戦記
(一)日清の役黄海の戦ひ、(二)日露の役日本海大海戦、(三)日米對戰ハワイ大海戦、(四)日英對戰マレー沖大海戦、(五)日對蘭米英戰バタビヤ、スラバヤ沖大海戦、等の海戦夜話
第二部 艦船及海空軍の作り方
(一)戰艦、巡洋艦、航空母艦、潜水母艦、海防艦、砲艦、敷設艦、驅逐艦、潜水艦、水雷艇、掃海艇、輸送船、戰鬥機及爆撃機の作り方
第三部 海戦競技の仕方
(一)敵前上陸戰、(二)輪型陣突破戰、(三)夜襲會戰

戰時國民幼稚園

(四) 瀾 達 な る 心 身

倉 橋 惣 三

國は今、その全力を展開せしめつゝある。進んでおそろゝころなく、向つてためらうころなく、撃つてくだかざるころはない。意氣冲天はこのころである。精力横溢はこのころである。力は展開によつて更に加へられ、愈々伸長、益々加増、同じく全力さいふも、今日の全力は昨日の全力でなく、明日の全力はまた今日の全力に止まらない。これ、大東亞戦下の日本である。

この雄大な戦下にあつて、國民個々の意氣の揚がるは素よりである。その足の歩みは、町の坦路に於ても、野の畦道に於ても、その強きこゝ行軍の如く強い。その手の働きは、ハンマーを持つても、鋸を持つても、櫓を持つても、銃を執り砲を曳くが如く強い。是非そうでなければならぬのである。殊に、業に向つて努力平生に倍し、事に當つて勇氣常時をしのぐのが、今日の日本人の生活である。

物資の不足、業務の繁劇、休養の減少、そんなこゝで少しも、消極にせられず、況んや萎微せられず、却て益々胸を張り、肩を聳かし、頭を擧げ、頬を輝かし、氣によつて氣を養ひ、力によつて力を貯へ、堂々として長期の大計に疲れを知らぬ活歩を續けてゆかうさしてゐるのが、今日の日本の青年であり、少年であり、幼児でもある。是非そうあらせなければならぬのである。長期益々重きを荷ふて貫はなければならぬ。國の後繼者に、今の生活で、その勢力を出しつくさせたりしてはならぬ。況んや、徒に小心に努せしめたりしてはならぬ。

國民學校令はその體鍊科に就て、「瀾達剛健ナル心身を育成シ、獸身奉公ノ實踐力ヲ培フヲ以テ要旨トス」ニ示してゐる。しかも、これはひゞり體鍊科の要旨たるべきに止まらず、又、必ずしも、國民學校の目的たるに限らない。今日の此の雄大な東亞戦下に於て、自らそうであらねばならぬ。また、是非そうあらしめなければならぬ。教育の一大要旨である。瀾達剛健の心身。何んたる勇ましい教育目的であらう。若し剛健さいふのが幼児としては餘りにも勇まし過ぎるならぬ、瀾達だけでもいい。何んたる好ましい教育目的であらう。曰く明朗、曰く快活、それらに、もう一つ彈力をつけ、發展性を添へたものが瀾達である。男の子も、女の子も、大東亞戦下の日本幼兒悉く瀾達たれ。そのために、幼稚園の先生が先づ瀾達でなければならぬこゝは言ふまでもない。

國民學校理數科の實際

(その五)

東京女子高等師範學校附屬國民學校主事

堀

七

藏

既に國民學校に於ける理數科の要旨教材等について説明いたしましたからこれより教授上の留意点についてお話し申し上げます。先づ理數科として留意すべき事項を述べますが、是等は國民學校令施行規則の第七條に簡條書で列擧してあります。また國民學校理數科の教科書、即ち低學年では「カズノホン教師用」「自然の觀察教師用」の總説に於て、それら詳細に説明してあります。それでは等を御熟讀になるまで明白になるのでありますが、これから私は是等を中心として説明いたします。

理數科の授業では第一に「皇國の道の修練」といふ全體目的を常に念頭に置いて、その指導に當らねばなりません。既に述べましたやうに、「皇國の道の修練」を旨として國民鍊成をなすのが國民學校の目的でありますから國民學校の教科科目はどれも皇國の道の修練をなすことを常に念頭に於てその授業を行ふことが緊要であります。それで理科數

は國民生活、國民精神の全體的觀點に立つて、他教科や儀式・學校行事などとの關聯を考慮し、しかも理數科獨自のものを中心として指導しなくてはならないのであります。

而して理數科獨自のものには一見、人間共通の普遍的なものであつて日本獨自の性格をもたないやうに見えるものがあります。この種のもものは眞に立派な日本國民となるために缺くことの出来ないものであるから選擇せられるのであります。それですからこれを取扱ふことは、さりもなほさず皇國の道の修練なるのであります。従つてこの種のもものは兒童がこれを最も自然に確實に體得するやうに、それらの特質に従つて指導すればよいのであります。それを日本獨自の性格をもたせようとして殊更に歪曲するのはよくありません。普遍的な面を含むものが身について、大國民としての素質をつくる上に役立つところに眞の日本の性格があることを思ふべきであります。即ち理數科は理數

科の特色を發揮せしめると共に、他教科との關聯を緊密にして國民鍊成の一途に歸せしむべきものであります。換言すれば理數科のための理數科教育に止まるのではなく、國民鍊成の一教科としてその特色を發揮すべきものであります。このことを常に念頭に置いて理數科の指導に當るべきことが第一に緊要であります。

第二に理數科全體の目的を常に念頭に置き、科目の孤立を避けると共に、科目の特色を發揮させるやうに努めることが肝要であります。

このことも理數科が國民鍊成のため新に設けられた教科であつて従來の算術、理科を綜合したものでないことから當然明白に理會せられるのであります。即ち算數も理科も理數科の要旨を達成するための科目であつて、それ／＼孤立したものではありません。理數科の中に算數、理科と二科目あるのでありますから、算數は算數の特色を發揮せしむると共に理科と相俟ちて理數科の要旨を達成すべきものであり、また理科はその特色を發揮せしむると共に算數と相俟つて理數科の要旨を達成すべきものであります。それで算數、理科の指導に當つては、常に理數科全體の目標を念頭に置き、科目の孤立をさけると共に、科目の特色を發揮するやうに努めねばなりません。

しかしこのことは算數の教材と理科の教材とを出来るだけ

結びつけて指導せねばならぬといふことではありません。既に理數科に算數と理科との科目を設け、それ／＼に教材を分けたのであるから、算數教材と理科教材とに分けたものは、分けたまゝで取扱ふことこそ科目を設けた趣旨にかなり、隨つて理數科の目的にも合致するわけでありませう。分つたことの出来ないもの、又は共通したものもそれ／＼の科目中に適宜に配當せられて體系が形造られてゐるのでありますから、既に算數教材としてまた理科教材として分けられたものを、無理して結付ける必要はないのであります。要は算數は算數としての特色を發揮し、理科は理科としての特色を發揮し、全體として正確な見方、考へ方、扱ひ方を身につけさせねばならぬことを念頭に置いてそれ／＼の指導に當らねばならぬのであります。第三には既成の學問を前提とした知識・技能を教へ込まうとする態度を避け、ものごころを正確に考察處理させ、眞實の姿をつかまうとする精神を涵養することに努め觀念、知識、知能、技能はその過程に於ておのづから獲得せられるやうに心掛けねばならぬのであります。

これは頗る緊要なことで、「國民學校が小學校と百八十度の廻轉をせねばならぬ」などいへれる精神はこの點にあるのであります。既成の學問を前提とした知識、技能を教へ込むことが小學校に於ける算術、理科の目的であるやう

に考へられたのでありますが、國民學校に於ける理數科ではそれを根本的に改新すべきであります。理數科の要旨は

事物現象を正確に考察し處理するの能を得しめ之を生活上の實踐に導き合理創造の精神を涵養して國運發展の素地に培ふことであつて、既成の數學や自然科學の知識、技能を授けることではありません。故に國民學校理數科は、ものごみを正確に考察處理させ、眞實の姿をつかまうとする精神を涵養することに努めねばなりません。従つて教師からいろいろの知識技能を説明したり教授するが如き方法をさげ、兒童をしてその心身を働かして學習するやうに指導せねばなりません。かくするこそその過程に於て兒童は明白なる觀念、知識を獲得することが出來、知能、技能が啓培せられるのであります。それで理數科の新教科書は特にこの點に留意して編纂せられてゐるのであります。即ち既成の學問を前提した知識技能を教へ込まうとする態度を極力さけてあります。そして兒童にもものごみを正確に考察處理させ、眞實の姿をつかまうとする精神を涵養させることに専ら努力するやうになつてゐるのであります。従つて教師は教科書を教へるこいふ態度を根本的にさげ、教科書を手引として兒童に研究させるやうに指導せねばならないのであります。殊に自然の觀察では「兒童用書の必要を認めない。強ひて編纂すれば「自然の觀察」を教室に於て教科書の

上で指導するやうなことに傾き易く、却つて惡結果を生ずる虞があるのである」云々である位であります。

第四に、ものごみを分析的論理的に推究する態度を養ふことを重んずるに共に、全體的直覺的な把握の仕方を重視することが緊要であります。

事物を研究するのに、先づ事物を種々の觀點から觀たり或はいくつかの要素に分けたりして分析して考察しその結果を綜合する仕方或は又、公理とか法則とかを設定して論理的に推し進める仕方は通常よく知られる方法であります。この分析的論理的に推究する研究の方法は頗る重要なものであつて、その修練を輕んじてはならないのであります。しかしこの方法だけではものごみの眞の姿をつかみ、新なるものを創造することが出來ません。ものごみの眞の姿をつかむには、ものごみを全體的に考察し、ものごみ全體のもつ第一義的なものをくもらない心にうつる第一感として把握しなくてはならないのであります。即ちものごみに對して素直な心で働きかけ、そのありのままの姿を捉へなくてはならない。かやうな心の働きはすべての仕事の基になるもので、分析的論理的な推究もその過程に絶えずこの働きが伴ふことによつて、正しい方向に向ふことが出來ます。又この心の働きによつて發明創造も可能なるのであります。故に理數科に於ては分析的論理的に推究する態

度を養ふことを重んずるに共に全體的直覺的な把握の仕方を重視せねばなりません。この兩者に輕重の差がある譯ではなく、また前後の差異がある譯はありません。

第五には實驗・實習・作業を重んじ實踐指導に努めることが大切であります。

教へられた事柄は勿論のこと、全體的直覺的に把握した事柄でも、分析的論理的に推究した事柄でも、實際にためしてみなくては正しいかどうかわからない事が多く、又十分納得することの出来ない場合が多いのであります。茲に實驗することの重要さがあり、従來はこの重要さから實驗が行はれてゐたのであります。教師が實驗して生徒に觀察させる、所謂教師實驗は勿論、生徒に行はせる生徒實驗も専ら以上の重要さから行はれてゐたのであります。しかし實驗は單に實證するためばかりでなく、これによつて真相を究明し新なるものを發見創造する重要な手段でもあります。このため行はるべき實驗は教師が行ふものでなく、生徒自らの行ふべきものであります。

知識技能を確實なものにするにはこれを實地に適用することの修練が必要で、ことに實習・作業の重要さがあるのであります。従つて實習・作業は教師が生徒に代つて行ふことが出来ないもので、生徒各自がその心身を働かして實習・作業をなしてこそその重要さを満足することが出来るわけ

あります。しかも實習・作業は單に知識・技能を確實にするためだけでなく、新な知識・技能を獲得する重要な手段ともなるから出来るだけ生徒各自に實習・作業を行はせることが肝要であります。

以上のやうに實驗・實習・作業は理數科に於て最も重視すべきものであります。換言すれば實驗・實習・作業は理數科指導の本體をなすべきものであります。そしてその結果が國民生活の上に現はれるやうにならなくてはなりません、即ち日常生活の實踐指導に最善の努力を拂ふべきものであります。それには常に細心の注意を拂つてものごこを調査、研究し、計畫を立て、事に當るやうな態度をとり、生活に秩序あらしめ、且、發展的創造的な生活を營むやうに努力させることが最も肝要であります。

この實驗・實習・作業を重んじ、實踐指導に努むべきことは理數科の特色とするところで國民科と大に異なる點であります。

第六には兒童生活に即應し、兒童心身の發達に伴ひ個性に適應した指導をすることが緊要であります。既に述べた如く、理數科では實驗・實習・作業を重んじ、實踐指導に努めることを本體としますのであるから學級としての指導であつても、特に兒童各個の指導に留意せねばなりません。一體學級としての指導は、兎角劃一的になり易いのでありますが、兒童の活動を主とする理數科の授業に於ては、兒童

生活に即應し兒童心身の發達に伴ひ、個性に適應した指導をなすことが頗る緊要であります。一學級の兒童は同年齡の子供であるとはいへ、その間に四月生れのもの三月生れのものでは約一ケ年の年齢差があります。従つて同一學級の兒童でも相當、心身の發達程度が異なるものがあります。また生活情況を異にするものがあり、個性にも相異があります。即ち六十人六十いろといつてよか位でありますから、この點をよく辨へて、出来る限りそれづゝの兒童に應じた指導をしなくてはならないのであります。勿論、基本的な事項はすべての兒童に或る程度まで徹底させる必要はあるが、その他の事項、或はそれ以上に互る事項については兒童の情況に應じて自然に伸ばすやうに心掛けなくてはならないのであります。第七には、必要と興味を感じせしめ、自發的活動を促すことが肝要であります。このことは第六の事項と共にすべての學習を通じて守らるべき心得であるから、國民學校令施行規則第一條の第九項及第十項に一般的に規定してあります。しかし兒童の活動を本體とする理數科では特に緊要なのであります。自ら進んで働きかけて行くやうでなくては何事も身につくものではないのであります。而して兒童が自ら進んで働きかける動機は必要と興味とであります。それで必要と興味とを喚起するやうに絶えず工夫して指導に當るべきであります。

(この項續く)

シンガポール陥落二三日前の保育室

愛媛縣今治市

昭安幼稚園

小さな人達の頭の中にも、シンガポール シンガポールと云ふことで心が高められております。日本の兵隊さん有難う、小さい胸にも湧き立つ思ひがある様でございます。狭い保育室の中の、海の荒鷲も強い、陸の荒鷲も強い。どんな飛行機で空襲したか、古葉書の戦車や兵隊さんの製作に餘念もない。視箱を取り出して墨する子供、薄い墨汁に軍艦色が出たと喜び合ふ子供達。

軍艦がよう立つ様に、よう浮く様にするにはどうしたらよいのと研究心に燃えております。あゝして、こうして、出来上つた變化の多い船體、南洋の海を思ひ、シンガポールの空を想ひ浮かべてならべた飛行機や戦車では物たりません。どうしたら動くか？、この小さい戦車一臺にでも魂が入っております。子供と保姆は一生懸命の思案、相談。細巾の布きれに縫ひつけて始めて右から左へと進む軍艦、進む戦車になつて、うれしさは一層ましてきました。かゞやかしさをまして來ました。

さゝやかな遊びであつてもそれは得がたい力強さの場面になつて、此の上もない輝しさの保育室になりました。

このお手紙といつしよに、この保育室内の光景が思はれる軍艦、飛行機、戦車、お馬等、古葉書利用のお上手な製作品が澤山送つてまゐりました。そして是等の製作品は細紐(帯蕊の切り取り部かと思はれる)に縫ひつけられて動くやうになつてゐました。私共保姆は、そのお上手さ、ご熱心さに一同感謝いたしました。

(編輯係り)

萬葉に於て日本の感情を見る (五)

東京女子高等師範學校教授

石 井 庄 司

三、國土を稱へる

神武天皇が日向から大和へ遷都遊ばされるに就いて、御
兄君たちや御子たちを召し集められて相談なさつた折の御
言葉の中に

東に美ひむかしきくにあり、青山四方にめぐれり

さいふのがあります。日向國から東の方にあたつて、青々
とした山に圍まれた美しい地がある、それはわが國の中心
に當つてゐることも仰せられてゐます。これはわが國土を稱
へる最も古い徵證であります。

琴歌譜さいふ古い歌謠を集めた本の中に、景行天皇がひ
さしく日向の國においてになつて、大和の宮を慕つてお詠
みになつたさいふ長歌を傳へてゐます。

そらみつ 大和の國は

神がらか ありが欲しき。

國がらか 住みが欲しき。

ありが欲しき國は あきつ島大和

歌の意味は、「大和の國は神様だからでせうか、ありたい

さ思ふ國であります。また國柄がよいからでせうか、住み
たいさ思ふ國であります。住みたい國は、あきつ島大和で
ある「さいふのであります、言葉は少々抽象的であります
が、現世の樂土としての日本に對する讚歎の意味はよく拜
祭致されます。

また應神天皇が近江の國においてになつた時、宇遲野の
近くに立つて、葛野を望んでお詠みになつた御製がありま
す。

千葉の 葛野を見れば

百千足る 家庭やにはも見ゆ。

國の秀ほも見ゆ。

これは國見の行事に關係がある歌と思はれます。萬葉集
のはじめに舒明天皇が香具山に登つて望國を遊くぐばした時の
御製は、前にも申したことがあります、これも亦國土を
稱へ給ふあらはれであります。その結句に「うまし國ぞ あ

きつ島大和の國は「こありますすが、景行天皇の御製の結句こも似通つたところのある調であります。よき國土を稱へ給ふ敬慮の程、全篇に溢れ、しかも蒼古さも申すべき素樸な御作であります。一度聲をあげて誦んで戴きたいと思ひます。

大和には 群山あれさ

さりよろふ 天の香具山

登り立ち 國見をすれば

國原は 煙立ち立つ

海原は かまめ立ち立つ

うまし國ぞ あきつ島 大和の國は

次に天武天皇が吉野宮に幸せる時の御製が萬葉集卷一のはじめのところに載せてありますが、まことに調子の高い御作であります。

淑人のよしこよく見てよし言ひし芳野よく見よよき人よく見つ

「よ」の音の繰りかへしが多く、誦み下してみて、歌の調の他と異つてゐるのに驚くのであります。天皇の御満足の御境地をお詠み遊ばしたのでありませうが、これもまた吉野宮のあたりの景色のよいのに因るこゝろ、思はれます。持統天皇が御一代のうちに二十數回さいふ度多く行幸遊ばされた吉野宮は如何にすぐれたものであつたか、天皇の行幸に従つた人麿の作の一つを味はつてみませう。

やすみしし わが大君の きこしをす 天の下に 國はしも さはにあれさも 山川の 清き河内を 御心を吉野の國の 花散らふ 秋津の野邊に 宮柱 太しきませば ももしきの 大宮人は 船並めて 朝川渡り 舟競ひ 夕川渡る この川の 絶ゆるこゝなく この山のいや高しらす 水はしる 瀧の都は 見れさ飽かぬかも 萬葉集には、これと並んでもう一首の長歌があり、それ／＼の長歌に反歌が添へてありまして、一つのましまつた作になつて居ります。

さて此の長歌の意味は、大體次のやうであります。「わが天皇陛下の御統治遊ばされる天の下に、國さいふものは澤山ありますが、山や川の清らかな河の流域にして、吉野の地の秋津野のほそりに、立派な宮殿を御造營になりますので、御殿にお仕へ申す人々は、船を並べて朝に川を渡り、舟を競つて夕に川を渡ります。そしてこの川の流の絶えないやうに絶えるこゝなく、またこの山の高いやうにいよ／＼高くいらせられます。この水の流のはやい宮處は、いくら見ても飽きないこゝであります。」

次の長歌の中には「登り立ち國見を爲せば」「さいふやうな句もありますので、人麿は行幸の御件をして、高い處から吉野宮のあたりを觀望して、この作をなしたものと思はれます。人麿の歌の中には、なんこなく神秘的なこゝろもあ

り、まだ述べ足りないやうな、少々わかり難いところもありますが、吉野宮のあたりの光景を稱揚して餘りがありません。かういふ國土を稱へる精神も結局は、天皇の大稜威のあらはれを考へられるのでありまして、まことに敬虔な心情の發露であります。さきに神武天皇の御言葉を掲げましたが、わが國土こそは、神の創めて造り給うたものであり、また神武天皇をはじめ御歴代の天皇の御經營遊ばされてきた、由緒あり尊い土地であります。さうしてこれを愛護し防護しないで居られませう。またこの美しい國土をさうして賞め稱へないで居られませう。萬葉集の中には、かういふ國土を稱へる歌が實に多いのであります。奈良時代の人々の心持の程も察せられて、ありがたく尊いことと思はれます。今日昭和の民としての私ども、また奈良人に勝ることも劣ることもない確信いたします。

かういふ國土を稱へる歌も、日本の象徴としての富士山を詠む歌によつて代表されてゐるやうな氣がします。山部赤人の富士山を詠んだ歌——田子の浦ゆ打ち出でてみれば眞白にぞ富士の高嶺に雪は降りける——は皆様のよく承知して居られるところと思ひます。けれどもこれは赤人の富士山の歌の反歌だけであります。この長歌をぜひ讀んで戴きたいと思ひます。

天地の 分れし時ゆ 神さびて 高く貴き 駿河なる

富士の高嶺を 天の原 ふりさけ見れば 渡る日の 影もかくろひ 照る月の 光も見えず 白雲も 行きはばかり 時じくぞ 雪は降りける 語り繼ぎ 言ひ繼ぎ 行かむ 富士の高嶺は

むかし天地は渾沌として何が何だかわらなかつたのです。段々上と下とに分れて、天地が開けてきたと言はれてゐます。古事記のはじめには「天地のはじめの時」といふ言葉があります。いはゆる天地開闢以來といふことであります。駿河の國にある富士の山は、その大昔から神々しく高く貴く聳えてゐるといふのでありますから、全く日本の國そのものゝ姿であります。その富士山のすばらしい光景を歌つて、「空を渡る太陽も姿も隠し、照る月の光も見えない。また白雲も行くのに躊躇し、時候はづれの雪が降つてゐる。」といつて居ります。この言葉の中には自然を神と見る原始的な思想も窺はれまして、まことに立派な歌であります。このやうに不思議な富士の山のことは、次々に語り傳へて行かうといふのであります。

この長歌があつて、終に反歌があるのであります。反歌といふものは概ね長歌に述べたことを要約することになつて居ります。それで、田子の浦から出てみるに、眞白く富士の高嶺に雪は降つてあつたといふのであります。深い感激の表現となるのであります。

小倉百人一首には、「田子の浦に打出で、見れば白妙の富士の高嶺に雪は降りつゝ」[△]として出てありまして、皆様もその方が親しみをお感じになるかと思ひますが、歌の本質からしますと、餘程大きな違があることになります。和歌といふものは、一字二字の違でも大きな結果を生むことになりまして、百人一首では「田子の浦に」[△]とありますが、萬葉集では「田子の浦ゆ」[△]とあります。「ゆ」は「から」といふ意味で「こ」は別であります。この助詞一つが既に大きな違を起してゐます。「白妙の」[△]「眞白にぞ」[△]も違ひます。なほ結句「雪は降りつゝ」[△]「雪は降りける」[△]も違ひます。二首比較して考へて行きますと、色々の問題がありますが、今は簡単に、萬葉集の方が勝れてゐること、その理由は、萬葉集こそ眞實の姿をそのままに述べたものであることだけ申して置きます。なほ、萬葉集の根本精神であるところの「わらへ心」[△]「いふところから、この問題を解釋してみるの面白いと思ひますが、すべて省略いたします。

萬葉集卷六に筑紫の太宰府の長官をして居りました大伴旅人の歌があります。京を遠く離れて九州にまで出かけたのですから、非常にさびしかつたらしいのであります。奈良時代の交通の様相から考へますと、今日ならば大陸はおろかシベリヤを越えてヨーロッパへ行く位に感じたのではないかと思はれます。太宰府で旅人の下役をしてゐた石川

足人といふ人があるとき旅人に向かつて、「あなたは、大官人の住つてゐる奈良の家を戀しくはございませんか」といふやうにたづねたのであります。するに、旅人が

やすみしゝわが大君のをす國は大和も此處も同じごぞ思ふ。

と答へたといふことあります。

「やすみしゝわが大君」といふ言葉は、前にあげた人麿の長歌の始にもありました。「わが大日本の天皇陛下」といふことでもあります。「をす」は御統治遊ばされることです。わが天皇陛下の御統治下においては何處でも同じである。草深い筑紫の果も大和も同じだと思ふといふのであります。草瘦我慢だといふやうにお思ひになる方があるかも知れませんが、旅人自身は決してそんなつもりはなかつたと思ひます。それは、この歌の調がよく張りきつて居ります。まづ初から「やすみしゝわが大君のをす國は……」と讀んで來ますと、その心持がわかると思ひます。歌といふものは、言葉の概念だけではありませんで、かういふ調といふものが大事なのであります。

國土を稱へる歌がかういふ歌にもなつて來ます。これは今日、北に南に發展しようとする吾々にも非常に力強い力を與へてくれると思ひます。南洋の孤島にあつても、日の丸の旗の翻るころ、天皇陛下の御統治下にあつては東京も此處も同じと思ふの氣概がほしいものと思はれます。

教育者としての保姆 (二)

— 文部時報第七百三十七號より轉載 —

東京女子高等師範學校教授

倉 橋 惣 三

三、幼稚園保姆と保育所保姆

以上は大體幼稚園保姆を目前に置いて論じた。しかし、世に行はれる保姆といふ名稱は、幼稚園保姆に限らない。法令上の言葉としてはないが、幼児保育事業に従事するものとして、常設保育所保姆は素より、季節的臨時従事者である農繁期託兒所保姆にまで及ぶ。すなはち、教育者としての保姆といふ問題は、そこまで擴げて見渡して置く必要がある。殊に前に言つた、幼児保育の必要を論じ、保姆の任務を説いたりする立場にありながら、保姆の教育者たることを、殆んど見落してゐる人々があつたりするといふのは、これ等所謂社會施設中の保姆に對してあるからである。

教育施設たる幼稚園保姆でさへ然りすれば、社會施設たる保育所保姆に對してさうなのは、當然といへば當然である。しかも、社會施設に教育施設との別は、それが兒童

に關するものである場合特に、果して、これ程の差異のあるものであらうか。或は、その施設の必要の發動状態に於ては異なるものがあらう。一つはその子ぎもの置かれてある現在の生活そのものを氣にかけ、一つは、その將來を氣にかけてゐるかも知れない。一つは扶けんとし、福祉を増進せしめんとし、一つは導かんとし、教養を向上せしめんとしてゐるかも知れない。それは、對象の状態に、それに對する人の心情の動き方の違ひによるであらう。しかも、これは發動状態の如何であつて、その對象に對する意圖の全體に於ては、必ずしも相離れた二つのことではない。況んや、一方であれば他方でないといつたものでは決してない。將來を考へるからして、今を見ずには決してない。今を見ずからして、將來を考へずにはゐられようか。扶けるに導くに於ても、何も別々に離れたことではない。殊に、現時の社會施設は、その通念に於て、昔日の社會施設と同じで

ない、昔日のが、所謂救済事業として對特殊社會層に限られてゐたのに對して、今日のは、一般社會的施設として展開せられてゐる。特殊社會層を對象とするこゝは、その客觀性の他に、その對象を特殊的に見るこゝは主觀性を含むこゝを免れない。たゞへば、貧困者をこゝに、貧困者としてこゝに着目の仕方が強いのである。つまり、對象の特殊化である。對象の特殊化による必要の發動である。これに對し、現時では、從來の特殊化を社會にひろげるこゝによつて普遍化し、又、特殊社會層に對しても、その特殊性に狭く囚はれるこゝなき一般性の見方を與へる。そこで、社會施設が、救済事業でも、況んや慈善事業でもなくなり、社會的普遍のものになつて來てゐる、今日の國家社會施設に於て特にさうである。

こゝで、こんな論議は茲ではいらぬ談義のやうでもあるが、筆者の言はんとするのは、若し社會施設がその特殊性に止まるものならば、その意圖も亦眼前の生活への急迫に止まるものであらうが、さうでない時、社會施設を教育施設とは、意圖の究極性に於て、何等、別であらねばならぬものではないこゝに點である。たゞへば、幼兒社會施設として最も急迫性を多分にもつ農繁期託兒所に就いて見る。その名が既に實感を示してゐる通り、家庭の繁忙による幼兒生活の缺陷への、取り急いでの救援が主である。或は又、

幼兒そのものゝ爲こゝよりも、親への足手まじひの取り除きが主ださへ、極く現實的には言はれたりする位である。實際、子どもを託する親達の心持ちから言つても、受託する施設の方の活動から言つても、それが目の前の事實である。しかし、その目の前の實狀を見物するばかりでなく、一寸でも心を深めて考へてみよ。その親達わが子をそこへ託しに來る心の中に、わが子の教育がないであらうか、或はそれは極めてかすかなるのであるかも知れないにしても、受託する保母の方の心が、たゞ預り、たゞ守りし、たゞ返すだけに止まるものであらうか。あり得ようか。苟も子どもを對象とする限り、教育でない社會施設といふものを、私達は考へられない。思つて見るこゝも出来ないのである。開設期數週に止まる季節施設に於てさへさうである。常時施設にあつて、國の子どもを、その大切な就學前期に於て繼續的に、企劃的に世話をしてゐるこゝが、教育施設でなくて何んであらう。

たゞ所謂保育所に於ては、私の前に試みた生活の分類によれば、幼兒の日常生活に即觸してゆく仕事が多く、同じ幼兒の生活でも、主として生活々動を盛り上げながら、それを誘導指導してゆくこゝに専らなり得るこゝの多い幼稚園の場合よりも、一層教育的に見える暇が少ない観はある。そのため、教育でない保育だといつた見られ方も

するのであらうが、保育の裡に含む教育的意圖、意圖ばかりに止まらざる立派な教育性に就いては、何等の差はない。寧ろわれらは、教育者としての母といふ世にも奥行き深い意味と同じ意味を、保育所の保姆にびつたり見出すのである。

幼稚園の保姆が教育者であることを知つて、保育所の保姆が教育者であることを思はない理があらうか。一方が教育者で、他方は社會事業者であるといふ對立は、今日何んの意味もない。或は、一方が心の教育者であつて、他方は保健養護にのみ任ずる者だといふ區別も、實際に於て何んの根據もない。保健養護を主意圖とする社會保健婦でも、家庭の子、村の子に對する生活的接觸に於て、細緻な教育活動をしてゐるものゝ、われゝは考へてゐる位である。況して、幼児のために母の協力となる保姆が、その急務として忙せられてゐる働は何んであらうと、教育的効果を期待しないものであり得ようや。實際上に保健養護の方面が多きを占めるにしても、その意圖そのものに初めから教育が無かつたら、幼児の保姆といふことは出来ない。若しまた、保育所の保姆が教育者として多少でも稀薄なことを許されるとしたら、同じく大切な國家の幼児を、一部分は幼稚園保姆に託し、一部分は保育所保姆に託すことの、そんな態度が許され得ることであらうか。就學のその日から

は、決して國家が許さない差別を、就學前なるが故に平然たり得べきであらうか。それも、生活層の別を以て國民が別扱ひされて疑はないやうなことは、古い、しかも個人主義的な國に於てなら兎に角、我が國の幼児に對してはあり得ないことである。それも、幼稚園は國家が管理し、保育所は全然個人的自由施設でよいならば、特定の對象に、特定の感情の動きを以てする特志事業として、それはそれと許されるであらうかも知れない。しかもそれにしても、教育者ならざるところの保姆によつて、その貴重な幼児期を保育せられる幼児は眞に幸福であるとはいへない。況んや、今日の保育所は、國家が盛に其の設置を獎勵してゐる施設である。現にこの通りに多數に普及してゐる施設である。そこに任に當るものに、國民教育者としての自覺、教育者としての責任感なきことは、決して考へ得られない。斯くて、幼稚園の保姆も、保育所の保姆も、苟も保姆たるものは、何等の差なく教育者である。就學前國民教育者である。社會もよく之れを認めなければならぬ。保姆その人もよく之れを思はなければならぬ。而して、此の結論は當然次のやうになつて来る。すなはち、幼稚園の保姆と保育所の保姆と、保姆として別々の制度下に置かるべきものでないといふことである。今日では、それが全く別の資格のものゝやうに考へられたり、取扱はれたりしてゐる。保

育所令(こ)さいつたものゝない今日、それは漠然たる區別に止まつてゐるけれども、此の區別が制度化せられるやうのことがあつたも、この不合理は一層甚しいあらはれをさらう。國民初等普通教育の任に當ることを許されるものは皆國民學校訓導である。對象とする兒童の生活層の相違によつて、それを受けもつ訓導に區別を立てたりしてはない。就學前の幼兒の保育には、國民學校よりもいろいろの種別が起るでもあらう。従つて、その働きさまには相違もあらう。しかし、その人が就學前國民教育者としての保姆たることに於て一毫の差別はない。宛かも、家庭の經濟的、地區的、職業的相違によつて働きさまはいろいろであつても、母たることに於て、一毫の差別なきに同じである。その働き場の如何なきによつて、教育者としての保姆の資格を別にしてならないことは、十分に確認して置かなければならない。

四、國民教育者としての保姆の養成

教育者としての保姆の認識と自覺とは、その實際的問題としては、資格認定の問題となり、それはまた、待遇の問題となり、養成の問題となる。これ等の實際を離れては、たゞ問題は論議と理想とに終る。ところで、これ等實際問題は、いづれも改訂の要を叫ばれてゐるが、こゝには、一切の基礎である養成の問題を取りあげる。教育者としての

保姆なき、言つて見たところで、養成の充實なくしては空論に過ぎぬからである。國民學校訓導の問題は、師範教育の問題と切りはなせないのと同じである。

ところで、現制度に於て、保姆の養成ほご不備なものはない。勿論、檢定制にはなつてゐる。しかし、國民學校訓導養成に師範教育あり、中等教員養成に高等師範教育あり、青年學校教員養成にその養成所あるに對して、保姆の爲に何がある。東京、奈良の兩女子高等師範學校に保姆養成科が設置せられてある。しかも、女子高等師範學校の本科内の一科ではなく、法令的には養成科を置くことを得ないふことに過ぎぬ。これ以外公立のものはない。勿論、女子師範學校の教育學科中に幼稚園の事項はあり、附屬幼稚園に於て實習することにはなつてゐるが、そして、卒業生には訓導たると共に保姆の資格が與へられることにはなつてゐるが、これも決して、保姆養成の機關として整へられてゐるものではない。私立の保姆養成所は幾つかある。それら、設立者の熱心な經營によつてゐる。しかも、これは、幼稚園令施行規則が保姆の資格を定めるに當つて、高等女學校卒業後、保姆養成専門の學校で一ヶ年以上の課程を了へた者であるに基いて設けられてゐるだけで、國家の養成制度として要求せられてゐるものではない。國家はそれを許可認定するのみで、師範學校の如く設置義務制を採つて

るものではない。實狀は全く此の通りなのである。それも制度としては存するが實際が振つてゐないといふのでなく、制度そのものとして此の通りなのである。尤も、理窟でいへば、幼稚園そのものゝ設置さへ義務制になつてゐないからいふ論も出よう。法制的にはそれと併行するものであらう。しかし、現に、幼稚園（及び保育所）の保姆の數斯くの如く、その活動斯くの如く、國民就學前の教育に當つてゐるこゝ斯くの如き實際に對して、その養成につき進んで積極的な企劃を講じ、これを制度的に強化し充實するは、國民の就學前に對する心須の忠實ではあるまいか。私立決して不可なのではない。しかし、特志家の設立を俟つてゐるのみは、餘りに熱意が足りない次第ではなからうか。

設置に關する制度上の問題の他に、その内容に就いても充實の必要がある。勿論右やうの次第であるから充實が出来なくなつてゐる譯ではない。一ヶ年の課程といふのも、最低標準を示したものであることは、法制の常識として明白である。何も一ヶ年に限るに定められてゐる譯ではない。しかし、最低限度とはいへ、保姆への養成が之れにて足るゝしてゐるのであつて、その要求の低さに遺憾があるのである。國の要求が此の低さで示されてゐるために、現存の保姆養成機關は皆一ヶ年制であり、それ以上は理想主義位

に考へられてゐる。又、極く現實の問題として、一ヶ年で事足るゝされ、それに基いて待遇もされてゐるものを、二ヶ年とし、それ以上とするこゝの困難は免れ難い。而して、國民就學前教育者としての、此の重任を擔ふて貰ふべき大切な保姆が、高等女學校卒業後、僅か一ヶ年で養成せられ得べきものか。人或はいふ。國民學校訓導が二ヶ年の師範第二部で養成せられてゐる。保姆はその半分位でよからうか。何んの根據を以て半減するか。斯くの如きは、教育者養成の實を知らない論である。

更に問題を、今日の保育所保姆に移して見る。その資格が定つてゐない位であるから、養成の規定なきないのは當然である。しかも保育が人口問題的に重要視せられる今日に於て、保育所保姆への任務上の要求は、幅も廣くなつてゐる。幅が廣いだけで高さは低くてもいふ。深さは淺くてもいふといふことは、教育者としての保姆に許されぬことである。してみれば、その養成には一層の長期を要する程であるに、その邊何んの制度もきめられてゐない。幼稚園保姆なきにも、最低限度の要求さへ示されてゐないのである。保育事業が、昔往々考へられてゐた如く、たゞ晝間幼兒預り所であればよく、雜然騒然たる子さもお守り場であればよいならばいざ知らず、今日の就學前幼兒問題といふ重要任務から見ても、斯くては寒心にたえずとも言ひた

位である。

そこで、さうしても、保育所保母養成の機關を制定しなければならぬが、それは幼稚園保母養成の機關を本質上、その點で別のものであらうか。精神にも内容にも、別でなければならぬ點がそこに存するだらうか。教育事業と社會事業といふことを、たゞ漫然と區別し、殊に古い通念で區別する淺見を離れて、何等の必然の區別もあり得ない。そんな通念があれば、寧ろそれを打ち碎いて、あらゆる幼兒保育施設にもつゝ社會性を入れ、もつゝ教育性を入れて、その互の超然と離隔を徹廢しなければならぬ丈けである。況んや、同じく國民教育者としての保母でありながら、或る者は或る社會層に、或る者は他の社會層に、初めから別個の制度下に養成せられるといふ如き不統制が、決して正常であり得ようや。勿論、その特に向はんとする對象に適する如き訓練の與へられる必要はある。しかしそれは養成の方法であつて、保母養成そのものゝ差別ではない。甚だ當らない例ではあるが、農村教育者、都市教育者、師範學校の教育方法は今日よりも、もつゝ徹底せられていゝといふ論があつても、師範教育そのものを二本三本にしようとするのではないのに等しい。

保母養成はもつゝ、向上充實せられなければならぬ。そして、國の制度としては一本でなければならぬ。同じ國

民教育者の養成が、二元的だの三元的だの、制度になつてはならぬ。それは保母はそれの方面への職業人として養成するだけで、國民教育者として養成する態度でない。論述は大層長くなり、編輯部からの求めに離れたかも知れないが、教育者としての保母の考究は、——社會の認識も本人の自覺も——養成の考究を離れては、實問題ならぬ。言のこゝに及ぶ所以である。

薰風そよぐ五月。若葉青葉の五月。健康の月五月。さればこそ五月は、一日から八日までが、健民運動強調週間としていろ／＼の事が企てられてゐます。

大人も子供も共に野に山に……
野に山に大いに歩ませう。大氣を吸ひませう。日光に浴ませう。
(記者)

六月の保育

生活訓練

倉橋 惣三

生活訓練は、つまりは躰である。躰は、つまりはよき習慣である。すなはち、生活訓練は、日常生活の間にも繰り返さへされてゐることを事項として、それが、おのづからに習慣になることを選ぶのが途である。同時に習慣づけることが大切なのであるから、一旦定めたこと、實行を約束したことは、必ず例外なく實行させなくてはならない。事そのことが、どつちになつても大したことでないからとて、不實行を大目に見たり、大まかにしたりしては、決して習慣にはならない。生活訓練は出来ない。一體、幼稚園内の幼児の生活は、大低がそう／＼大したことでもないかも知れない。一つ／＼の事項そのことの重きが故よりも、習慣生活そのことの必要なるが故の勵行と心得なければならぬことが多い。

「扉の開閉を靜にすること。」これなども、そう大した道徳でもない。しかし、大した意味もないだけに、習慣養成としては特に

いゝといへる。一旦つけば、何んの苦もなく出来る上品な習慣行動である。大した意味もないといつたが、室内には友達がある。何か作業もしてゐる。先生がお話してゐらつしやる。そんな時、亂暴に音を立て、扉を開閉出来るのは、行動の荒々しさといふよりも心持の粗さである。幼い子に、そう／＼紳士淑女のしとやかさもむつかしいとして、扉位ドシン／＼と開閉するのが豪傑だ、大人物だといふのは、野蠻教育である。開閉を靜かにといふことの前には、扉は開いたら閉ぢるものといふことが先づあるのはいふまでもない。これも習慣である。この習慣が二十歳になつても三十歳になつてもついているない人があるが、恐らく、幼稚園時代に、此の生活訓練をされなかつた爲であらう。尤も、馬鹿の三寸とかいつて、いつでも半分位閉ぢたりするのは、先天性として如何とも出来ないのかどうか知らない。

扉の開閉は作法の一つであるが、大切なことは、その室が他人といつしよの室であつて、自分の行動が他人に迷惑を及ぼすといふことの、こまやかな感じの有無である。どうも此點、從來甚だ充分に出来てゐるといへない。先生にも、どうも、少なからずあら、つ、ぼい、人がある。日本坐敷でお茶の湯といふ時には、いともしとやかな人が、幼稚園となると、扉を投げつけのパタン閉めといふのは、洋風生活に敵性を感じてか知らんが、もう何も、扉を西洋のドアと考へにくまなくてもよからう。その餘勢によつて室内の花が散る。色紙が舞ふ。きもがつぶれる。小さな幼稚園だと全園に響き渡つて、天井から塵が落ちる。まさか。

砂場でも、まゝのごとでも、後片づけは中々出来にくいものである。がしかし、之れも、習慣で出来る。たゞ、誰れだつて、後片づけが好きといふ譯もあるまいし、幼児にして、出しっぱなしがそう／＼氣にかゝるといふのも、かゝんが強過ぎたりする。何んだか、年寄り臭かつたりもする。そこで、こゝにいふ、謂はゞ幼児としてつい忘れるのか一應無理もないことの訓練は、先生がいっしょにしてやるのだが、時々必要であらう。

但、先生の手傳が過ぎると、先生にさせて仕舞つたり、先生がしなければいけないといふ風になつたり、そこは中々の加減がいり、こつが在る。手傳ふと見せて、幼児を引込んで置いて、後は餘り手を出さぬといつたところが定石でもあらう。

が、それより大切にして、有效なことは、先生が先生の領域に於て、片づけをよくして置くことである。幼児には、さあ／＼お片づけと小やかましくいひながら、先生の机の上はくちや／＼のごちや／＼では、「でも先生のは」と幼児だからこそ言はないだけのことである。少くも、その反對のどんなに有效なかは、最も明かなことである。一體全體、清潔とか整頓とか位、先生の風が幼児にうつることの多いことはない。組の風が、ちやんと分れる位である。ちらかし先生の組は、ちらかし子。出しっぱなし先生の組は、出しっぱなし子。餘りのてきめん、恐ろしい位である。

品物を大切に取扱ふ習慣も、前述二項と性質に於て同じ生活訓練である。ぞんざい。なげやり。一寸物を置くにも、ほうり出す

のもあれば、そつと置くのもあり、何も、お姫さまのやうにといふ譯でもないが、之れも習慣で出来る。一體、あんまり亂暴な扱ひ方をする子は、性格のどこかに問題があつたりする。普通の子なら、之れも、親ゆすりか、先生ゆすりで、どうともなるのである。

生活訓練の基礎は先づ先生の生活訓練である。

自由遊戯

上遠 文子

六月と申しますと雨の多い月でございますので私達は自然と室内での遊戯材料を澤山提供しなければならぬわけでございます。お天氣のよろしい日はそろ／＼暑い頃でありますから、戸外と室内でのご分けて考へてみる事に致しませう。

戸外遊戯

笹舟遊び、水遊び 夏も近づいた今日此頃は、やはりお子さん達も水がこひしくなり、お池のそば、川のそば等に自然と集つてしまひます。笹舟、昔からの作り方で御存知でございますが、片方又は両方を折曲げその輪の所を三等分に縦に切込を入れる。次に兩端二つの切込みを組合せ搜込んで、出来上りであります。片方だけだといかだの様、兩方だと荷物船の様で、仲々よく走ります。笹が手近に得られない時は、古葉書又は、紙屑で充分上等な舟が出来上ります。

(古葉書利用の舟は昭和十四年夏講習にて及川先生より御指導受けしもの)

或時お子さんが腐つた様な木の切とこれも又あまり綺麗でない割箸位の棒とを持つて来て、この木へこの棒を立て、來れと頼んだので立て、あげるとその棒の先に日の丸の旗を立て、お池に浮かしてゐました。成程、潜行艇の様に水の下をもぐつて走つたり、すゝつと仲々よく走つてゐます。又田舎で子供達がこれと同じ様だがたゞ棒の所に紙の帆をかけて走らしてゐました。これも又とてもよく走り氣持が好い。立派な型、立派な色彩でなくとも子供達は自然の、しかも自分達の手で作つたものは、何にかかへ難い玩具なのであります。それ故私達はその子供さん達の工夫を助け、指導し、より以上お子さん達の生活を豊にしてあげたいものであります。言ふまでもなく、水遊びに夢中のお子さん達に過失のない様特に注意せねばなりません。

兎と龜の競走 先月のリレー遊びをちよつと嗜好を變へてみました。兎になる組又は人は、兩足をそろへ一足飛びにびよんと飛びます。手は胸の所でも又上で耳の様にしてもそれは隨意です。龜は、腹はびになり、四つ肢ではふ様に走ります。何れも相當體力を要するものですので長い距離は無理でせう。リレーにしても又七八人各自好きなものになり競走しても面白く遊べます。その他、飛行機になつてもよろし、蝶々でも、種々立案し、自由表現競走として遊ぶのも變つた嗜好であります。

室内遊び

毬かくし 團體でも又個人々々でも遊べる遊戲です。かくすものは毬でなくとも何でもよろしい。鬼を一人きめ、鬼になつた人は、目をつむるか、部屋の外に出てゐる。その間に毬を、誰かの掌の中とか、ポケット、椅子の下、又はお部屋の中の何處でもよい適當な所にかくしてしまひます。かくしたはつたら鬼を呼んで、さがしてもらふのでありますがその時は、皆で手を打つか或はピヤノで、そのかくしてある場所近くへ來た時は、大きい音とか又は早いテンポ。遠ざかつた時は小さい音、又は遅いテンポにしますから、鬼はピヤノをよく聞いて、その邊をさがすのであります。その時注意する事は、音の聞分の練習にもなりますから、ピヤノを弾く人は高低連速を明瞭に致したいものであります。

寶さがし 前の毬かくしと似た遊びであります。圓くなり、鬼は真中にて、やはりかくすものを決めるが、これは手の中にかくすので、かくれる小さいものがよろしいとおもひます。始めに鬼によくそれをみせておき、ピヤノがはじまると、そのリズムにあはせ、その品物が廻つて來なくとも來ても、みんなが同じ様に左手は上向にして動かさず、右手だけ終始動かしてゐるので、動かしながら、鬼に解らぬやうにお隣りの上手にまはすのであります。ピヤノは適當の時やめます。と同時に皆持つてゐなくとも、持つてゐても、全部兩手を握つてこぶしを作つてゐます。鬼はその品物の行方を大體目ぼしをつけておきあてゐるわけでありす。上手になると仲々わからず、鬼も時々降参してしまふ事があります。目ぼしは大體つけてあつても、次々と數に制限なくあて、ゆくの

は面白くありませんから、幾つまであつて事が出来るかを決めておいた方がよろしいでせう。

同じやり方で唯まはす時に両手で次の人の手の中へ落す様に、わたす方法もあります。

又雷遊びと云つてピアノの代り、鬼は圓の中で目をつむり、ころ／＼／＼／＼／＼と云つてゐて、適當な時にどつしやんと雷を落すと、その時みんなは、持つ人も持たぬ人も一齊に手を握つてしまふ。ころ／＼／＼の間中ぐる／＼／＼まはし、落ちた時にもつてゐた人が持つわけで鬼はその人をさがし出すのです。

椅子とり 誰でもよく知つてゐて何處でも歓迎される遊びであります。先づ椅子なり、座蒲團なりをやる人数よりも一つ又は二つ、三つ少い数だけ用意し、椅子の場合、外向にまゝ置く。場所の廣い場合は中に椅子をばら／＼において、そのまはりを通るのもよろしいとおもひます。マーチ、歌等勇しい曲にあはせて歩いたり、スキップ又は自由表現を用ひても面白いでせう。その椅子のまはりなぐる／＼あるいて居て、そのうちピアノがやんだら、何處でもよいから椅子に腰かけるのであります。人数より少く椅子の数があつてから、自然とかげら、抱ない人が出来るわけです。その人は真中へ入つてしゃがんでゐる。椅子を又少くしてさんざん續けてゆくのでありますが、年少組等は中へ入るのを嫌がりまゝから、そのまゝ、その人も入つて續けて行つてもよいと思ひます。年長組では次第に人数が少くなる所で又面白

味が増すことであります。

かうした場合、時々一つの椅子に二人かけてしまひ、ともすると言ひ合ひになり易いものです。それはぢやんけんできめ、おたやかに解決つきたいものであります。

ハンケチ落し 今度はその椅子をぐるりとひつくり返してみませう。皆圓の中心にむかつたわけです。

一人の人がハンケチをもつて、マーチ、レコード等にあはせて皆の後をまはつて歩き、誰でもよいから、椅子の後へそつと落してゆきます。皆は鬼が自分の後におとした事を早くささる様になります。氣が付いた人はそのハンケチをもつて他の人の所へ落しにゆきます。鬼が一まはりしてその人の所へ来るまで氣の付かぬ人は鬼に背をぼんとたゝかれます。たゝかれた人は駄目なわけですから見てゐます。あまり氣にして何時も／＼後ばかりむいてゐてもつまりませんから手拍手でも取りつゝ鬼の行動をみまもつてゐる様に致します。

誰が始めたのでせう？ この遊びは年少組に少しむづかしい遊びであります。年長組でもどうかするとその面白味が理解出来ず却つてつまらなくなる事もございしますから説明は細くした方がよいと思ひます。

やはり圓を作つております。鬼を一人決め、その人は部屋の外に出てゐるか又は呼ばれるまで圓をかくしております。その中に鬼に解らぬ様に發起人とでも、申しませうか、動作、さんな事をしてもよろしい、(例へば手を振る、手を打つ、お頭てん／＼等)

をはじめる人をきめます。その人は次々と新しいのを考へて動作をすると皆はその人の眞似をするのです。ところがその眞似をする時、鬼は誰が一番はじめに始めてゐるでせうとさがすのですから、その人の方をみない様に又新しく變つた時はなるべく早くさつて變へる様にするやうに仲々鬼がわからないで面白いわけです。

こゝは何處の(どなたの)細道ぢや あまり今頃はみない遊びですが、昔しのぶ、ゆかしい遊びの一つであります。

○こゝは何處の細道ぢや

× 天神様の細道ぢや

○ちよつと通して下さんせ

× 御用のないもの通しません

○この子の七つの御祝ひにお札をおさめに参ります

× 通りやんせ〜 行きは好い〜

歸りはこわい。こわい

ながらも通りやんせ〜。

天神様の細道を作る人二人、お母さんと七つの子になる人。これは二人づゝ、幾組もあつてよろしいわけです。

○は親子が言ふ言葉で×は細道を作る人が言ふ言葉です。行く時はすーつと通しますが今度歸りは、用心して、通らぬと、細道をつくる人はその人をぶちます。ぶたれぬ様、すきをねらつて通るわけなのです。ぶつと言ふ事はあまりよくありませんから、細道を作る人はトンネルを作つてそこをおとして圍む様にした方がよいのではないかしらと思ひます。

遊 戯

古澤 静子

身心共に高い空に向つてぐいぐい伸びて行きます。子供等の愉快な歌聲は、園庭に遊戯室に生氣に満ちた響きをもたらします。

季節のリズムにつて、もう六月が訪れて参りました。その中にあつて幼児の全生活は或一定のリズムにのつて形作られ、又このリズムに支配されて發育いたします。殊に彼等の身體運動の一つ、或は口づさむ歌曲の一つに、大切なリズムのある事は忘れられません。子供の歌は、専門的技巧はなくとも、常に正しいリズムと正確な音程によるものでなければならぬ。とは、今更申すまでもない事でありませう。

次におげます「みちぶしん」「ギョウバツタン」「オフネ」「水あそび」等、何れも四拍子、二拍子の活動的な遊戯に於きまして、潑刺とした手足の動きは更に、正しいリズムと音程を持つた歌曲と渾然一體となつた時、一層快感を味はひ得るものと思ひます。

「貝拾ひ」 最新作曲幼稚園唱歌集所載

干潮に乗じて熊手やシヤベルで貝堀りをする事は、都會の子供にはあまり關係のない事でありませうが、それだけに却つて興味ある事でありませうし、海邊の子供達には、楽しい行事の一つに數へる事が出来ませう。

全生、波と子供に分れます。

「一小節——四小節」

全生二組に分れ、各組は二列横隊になつて、一方を波、一方を子供と云ふ様に區別して向き合ひます。間隔七米位。

波の列は、連手して兩手を前振後振しながら、一小節に四歩前進、次の一小節で四歩後退します。四小節目に反復記號がついて居りますから、四回前進後退する事になります。この小節は、ppスタッカツトで波の響きは遠く近く、強く弱く聞えて居ります。

子供の列は、波がチャップ／＼音をたてゝある間、そのまゝその場に腰を下し、自由な表現で貝を拾ひます。兩手で砂をかき分ける人、掘る人、籠の中に入れる人、様々な貝掘り風景です。

「五小節——八小節」

波は連手したまゝ、子供達のある岸を目かけて走り出します。

子供達は身をかかわして、後方に駆足で逃げます。

fアルペジオ。半音階的上行によるピアノの音は、突然押寄せた、すさまじい波の音に聞えませう。

八小節目に波は、連手を上より前に下し、上體を前にかゞめませう。さぶーんと岸に打ちかへしたところ。

「九小節——十二小節」

波は連手のまゝ、駆足で後退し、前方に逃げた子供達は、駆足で再び元の位置にもどります。波を追ひながら。

後奏は、始めの四小節の繰返しになつて居ります。

波と子供を交代して何度も繰返して行ひます。

「オフネ」 幼稚園唱歌選集所載

十人一組で縦隊に並び、腰を下して兩足を前に出します。

「オ舟ハギツチラコ／＼／＼」

兩手を握り權を持つて二呼間に一度漕ぐ、即ち兩手を前に出し、上體を前に屈け、兩手を體前に引き寄せると同時に上體を起こします。

繪本で見たり、舟に乗つた事はあつても、權を握つて實際に漕ぐ事は始めてでせう。各自の懸命な努力と全體の一致協力に依つてよく進みます。

「波ニ揺ラレテユラ／＼動く」

兩手を前の人の肩にかけ、二呼間に全生一組に體を左右に振ります。

私共は舟に乗つてゐると同時に、ゆら／＼揺れる波であるとも云へませう。

「オ舟ハ本當ニ面白イ」

左手で二呼間に二回左の床をたゞき、次の二呼間に右手で右床をたゞきます。次の二呼間に四拍手します。

その動作二回繰返し。

「ギツチラコ／＼／＼」

二呼間に一度づゝ漕ぎ、最後に兩手を前より上に挙げ後に下し、頭を後に下げて空を見ます。胸を張つて頭を一つと下げてみませう。いゝ氣持でせう。

始めから終りまで、上體を全屈して力一杯漕ぎ、しかも全體よ

く揃つて滑げる組が一番よく進む様です。

『ギツコンバッタン』 幼稚園唱歌選集所載

二人組んで向き合ひ。全隊形は自由。

「ギツコンバッタン面白イ」

二人向き合ひ、二呼間に右手と左足(踵をつけて、爪足を上げ)を前に出し、お互に前の人を指さしては、手と足を元に戻し、次の二呼間で、反対の手と足を出し、交互にこの動作を行ひます。

「上ツタト思へバ又スゲ下ル」

四呼間に一生は立つたまゝ頭上で拍手し、二生はしやがんで、そのまゝ拍手。次の四呼間には、一生と二生交代し、一生は坐つて拍手し、二生が、立つて頭上で拍手します。

「下ツタト思へバ又スゲ上ル」

再び一生と二生が交代し、以上の動作を繰返します。

「ギツコンバッタン面白イ」

二人向き合つたまゝ、両手をつなぎ、又スキップで圓く廻りま

す。

おや／＼、両方共下つてしまつたギツコンバッタンがあります。どうしたのでせう。一方が高くなると、一方が低くなる。高い人が低くなると低い人はぐんと空に上るギツコンバッタンを御存知でせう。前の方と反対に立つたり坐つたり致しませう。お

手々を高く擧げてたゞきながら。お空までどゞきせうです。最初は、二列横隊で向き合つて同列同時に、同じ動作を行ふと、

交互にする動作も容易に體得出来ませう。

『みちぶしん』 幼稚園唱歌選集所載

隊形自由。動作は、一節より三節まで同じ。

「前奏の間」

各自ツルハシを擔いで、自由な方向にスキップで出かけます。ツルハシを御存知ですか。工夫さんが大聲で調子を合せながら振り上げては打ち下すツルハシを。工夫さんは力一杯振り上げて居ります。重そうですね。両手にしつかり握つてゆきませう。

「一小節——四小節」

自由な位置に止まり、二呼間でツルハシを持ち上げ次の二呼間で打ち下す。即ち両手を握つて右上に振り上げては、土に打ち込む動作をいたします。

重いツルハシですから、全身を使用しなければ、臂の力のみでは充分に振り上げる事も、打ち下す事も出来ませう。兩足を踏みしめて、両手を出来るだけ高く持ち上げ、ぞしんと土にぶつけて下さい。

「五小節——八小節」

シャベルで土を掘りかへします。

両手を握り、左足を床を打ちながら、二呼間に一度づゝ前方を掘る様に、両手を上下に動かします。

「九小節——十二小節」

最初のツルハシの動作を行ひます。

「十三小節——十六小節」

シャベルの動作を行います。

前奏は間奏として次の節の前に挿入し、その間に又自由な方向へスキップで散ります。

形のない道具で作業をするのですが、徒らに空間に於ける兩臂の上げ下しに終つてしまふ事なく、全力で仕事をすれば、終りには、臂や顔に、尊い汗がにじみ出るでせう。本當の工夫さんの様に、右側に道具を持つた方がよいと思ひます。元氣な聲で歌ひ調子をつけながら致しませう。

『みづあそび』 幼稚園唱歌選集所載

隊形、圓形

「シュツ〜〜〜水鐵砲」

全生圓内を向いてしやがみ、掌を外側に向けて軽く握り（水鐵砲）その中に水を入れる様に、右手を握つて一呼間に一度づゝ臂を上下に動かします。

「上ツテ落ちル」

兩臂を上へ舉げ、水を押し上げる様にしながら一呼間に一度づゝ右手を上下に動かします。

「植木ニ落ちル」

再び下に向け、植木にかける様、一呼間に一度づゝ右手を動かして水を出します。

「高ク上ツテ又落ちル」

二呼間に立上つて、兩手を前より上に舉げ次の二呼間で兩手を前より下して後に引くと同時に膝を全屈します。同様の動作を

も一度繰返します。

「スーースーースーおもちゃ舟」

全生左を向き、指先を伸して兩掌を合せ、前方に押ししながら一呼間に一歩づゝ進む。

「帆カケテ走ル」

手は合せたまゝ、頭上へ上げ、同方向に踵足で走ります。

「水切ツテ走ル」

再び兩手を合せたまゝ、低く下して走ります。

「風が當ルト又走ル」

兩手をそのまゝ、又頭上に舉げスキップで、圓周に沿つて、走ります。

冷たい水が懐かしい頃になりました。水鐵砲に入れた水は、高く低くすーすーと元氣よくかけて下さい。玩具の舟もすい〜と氣持よく走つてゐます。

『雨』 幼稚園新唱歌所載

隊形、圓形で圓心を向く。

「雨が〜降つてゐる」

二呼間に一度、左（右）手を伸して前より上に舉げては下し、次の二呼間に同様右（左）手を前より上に舉げて下し、この動作を左右交互に繰返します。

雨は、お空の高い所から落ちて來るのですから、胸を張つてお手々が空にとどく迄、膝をぐつと伸ばしてみませう。踵を上げても結構です。

「聞いて御覽よ音がする」

こゝまで始めの動作を續けます。

「ピチ／＼パシヤ／＼音がする」

頭をかたむけ、左又は右の耳の側で拍手しながら各自の廻りを一廻り致します。

可愛い兩の音が聞えませう。

「ほーらお池に降つてゐる」

二呼間で踵を擧げると共に兩手を伸ばして前より上に擧げ、次の二呼間で兩手を前より下して後にひくと共に、膝を全屈します。従つてこの動作を二回繰返すことになりす。

「金魚はどうしてゐるかしら」

全生お互に、兩手を隣生の肩にのせ、圓心に進み、最後の小節「ら」の時に、上體を前方にかゞめて、池の金魚を覗く様な態勢を作ります。

この時は、皆揃つて、そつと見に參りませう。大きな音をたてると金魚達が驚くでせうから。

「雨が／＼降つてゐる、聞いて御覽よ音がする」一節と同じ動作。

「ほつ／＼／＼音がする」

右手を握つて左掌をたゞきながら（一節と同様耳の側で）各自の廻りを一廻り。

「ほーら八ッ手に降つてゐる」

一節の「ほーらお池に降つてゐる」と同動作。

「晴れたら葉つばが光るだらう」

左(右)の方を向き、兩掌を開いて、最初二呼間、顔前でキラ／＼動かし、次の二呼間兩手を下して正面を向きます。次に、反對の方向に同様動作をして最後に正面を向きます。八ッ手の葉つばの様にお手々を開き、葉つばがキラ／＼光る時皆さんのお顔もニコ／＼輝いてゐるでせう。

「幼兒體操」(ハトボツポの體操)

皆さん揃つて、レコードやピアノに合せ、各部の動作は、ものまね とか あなたのまね で、特に練習する事が出来ませうが、自然な大きな動作でいたし度いと思ひます。

観 察

軍艦(繪又は寫眞による)

清 水 光 子

繪や寫眞によつて觀察をさせてよいとするのは觀察本來の意義からは願はしくないことが言ふまでもなく、止むを得ない場合の他は實物を觀、それで遊ぶことにし度い。これは止むを得ない場合の一つだと言つてもよく、又そこに別の意味も加つて來るが實物の場合とは取扱ひにも違つた注意があらう。まづ正確な、新しい寫眞や繪であることが勿論望ましい。大東亞戦争が始つてからといふもの軍艦について皆の關心が昂つてゐるからこの海軍記念日には特に氣をつけた取扱ひなし度いものである。出來れば黒板や壁にはつてみんんで見られるやうな繪か寫眞を用意して子ども達と一しよにはり乍らみて話合ふ。大人の及ばない軍艦通があつ

て驚かされることもあらう。保母が殊更に知らない顔をするのもなく、精通した智識を話してきかせることは要らないことであるけれど、海國民として常識的な、軍艦の種類とか、性能、大體の形、敵國軍艦と外見上著しい相違とかは知つてゐて、事だと思ふ、子どもとの話合ひの中にそんな様なことを、我國軍艦のめざましい活動とどうしてあんなにつよいかを話してきかせる中に知らせるやうにする。斯うした繪や寫眞は一日二日でなく、二週間位はいつも目につくやうに見せて置く。此頃のやうに新聞にある戦争中の寫眞もその時々心して切抜いてはつて見せるのは又言ふ迄もない。

衣更へ、季節について

このころは以前程衣更への嚴密さはないが、こんなに暑くなつた、木の葉がすつかりしげつた、といふやうな季節に對する關心を呼ぶいとぐちに、まづ身近なきものに注意する。誰さんは今日から半袖になつたのね、とか、幼稚園の前のお巡査さんの洋服が白くなつて、とか先生は今日から単衣よ(單衣といふ意味もみせて話す)とかいふことから、みんなが幼稚園に入つた頃は木の芽や草の芽が出たばかりだつたのに、みんなの植えた、蒔いた種子からこんなに大きくなつたし、木の葉はみんな繁つたし、日向ぼつこしたのが、日陰がよくなるやうに暑くなつたし、といふやうなことを話して、これからさん／＼暑い夏の日がつゞいて次に、秋に、冬に、又春に、といふ季節の移りかはりを話す。そして今盛に戦をしてゐる方面の氣候のことを一しよに話して、兵隊さんの御苦

勞を感謝し乍らしのぶやうにし度い。大きい組にもなれば日の長さの事を話すが小さい組ではまづ／＼身近なことから直接目で見、感じさせ乍ら話す程度にする。

かたつむり

子どもの好きなかたつむりが出る頃である。お庭の隅から誰かがみつけて来たとなると欲しい人が澤山ある。みつげに行く、先生も一しよに、誰さんはどこでみつけたの、こゝら邊にゐるかしら、ゐない、こゝには、こゝにゐた。又ゐた。ぢやこゝにもゐるでせうか、澤山ゐた、といふやうに見つけて箱に入れて二三日か或は長く飼つてみても面白い。所謂角を出してはひまはるのをみたり、ぬれた所を歩く、前にあとのある所をあるくのなみたり、こげをなめでゆくあとをみたりする。

雨

そろ／＼、梅雨になる。今日も、昨日も雨、外へ出られないといふ日に梅雨の話が出る、どんなに雨ふりの日が多いかすつと見てみませうと毎日のお天氣を赤丸青丸白丸で黒板の隅にかくなりはるなりしてみるのもよい。窓から雨が降つてゐるのを眺める。どうして降るのと聞く子ども、どうしてでせうねと言ひ乍ら空を仰ぐ、どこから降るのと又きく、どこからかしら、雲からよと返す子ども、今日の雨はザーザー雨ね、しよば／＼雨ね、又霧雨ね、葉っぱに當つてはねかへつてゐる、お庭がお池のやうになつて雨のおちてきた所が丸くなる、こんな話をし乍ら眺めるのでよい。

時計

六月十日が時の記念日なのでこゝに時計が出て来たのであるけれど時の記念日のことは年少組では話さないでもよいかと思ふ、針のうごくやうにした時計といふより文字板に針をつけたのをお室に置いて針をうごかして今何時といつて實際の時計と合せてみせたり、幼稚園が始まる時刻、おべんどうの時刻、お八つ、お歸りの時刻を示してみせたりする。この作つた時計はおまゝこの家の時計に自由に使はせるやうにする。

野菜

子ども達と植えた野菜が何に依らず收穫したらそれは本當にうれしい事で、さつそくお盆にのせて家庭でなりお初物として神棚、佛壇に供へるといふ所であるが、寫生をしたり茄子や胡瓜のやうなものなり粘土でつくる。二十日大根や人蔘などならきれいな紙、切紙が楽しめる。そらまめやえんどうは子ども達にわけてもよいであらう。若し幼稚園で出来たお野菜がない時は時々季節々々のものを用意して手技の材料にして親しませるやうにし度い。

談話

安村 ふさ

六月といへば幼稚園生活にも幾分慣れた頃で、團體行動にも素直に入つて行ける心構へが、淡いながらも出来かけた時であります。それと同時に、各自の持ち前を發揮して、他人の迷惑になる

様な元氣過ぎる子ども二人三人現れ始めます。そんな時に子ども達の氣持を和げる爲に、靜かにお話を聴かせるといふのは誠に好ましい事であります。又此の頃はうつつたうしい梅雨の時期ですが、平常日光を惜しんで戸外で遊ぶ幼稚園では、却つて此の雨を幸ひとして靜かにお話をしたいものであります。

此の月、保育案に豫定されて居ますのは、西瓜と鼠、田原藤太、梅雨の話、牛若丸、馬の頭、赤の王様、七匹の小山羊、三匹の子犬のはなしであります。此の一ヶ月には古今、東西のお話が選ばれてあり、變化があつて大變面白いのですが、勿論此の他に適當なものとはどんなに扱つて、こどもの心を豊かならしめ、潤ひあらしめたいと存じます。先づ保育案に従つて大體みて参ります。

「西瓜と鼠」八百屋のお店に竝んであるお野菜が、毎晩鼠に悪戯をされるので困つてゐました。そこでお野菜達はいろ／＼相談した結果、西瓜に懲らしめてもらふ様頼みます。西瓜は其の晩鼠の虚をつき、その大きな重い體を利用してうまく懲らしたといふお話であります。結局、悪い事をした爲に懲らしめられたといふのでせうが、それよりも、此の、場面を八百屋に、登場人物をお野菜に、といふ點に注意したいと思ひます。其の爲に單純ではあります、極めてユーモラスに、然も自然に筋の運ぶ點がこども達に迎へられるのだと思ひます。尤も、西瓜がごろ／＼と轉つて、鼠のしつぽをきゆつとふんまへるといふ所は、それはもうたまらなく愉快らしく、歡聲を擧げるのですけれど、話中に出て来る野菜は、胡瓜、茄子、トマト、すいき、ちやがいも、さつま

いも、里芋、キャベツ、蓮、ごぼうで今の時代からみると、夢の様に豊富な野菜です。その色とりどりの美しさ、豊かさは私達大人だけの魅力でせうか、とにかく野菜に對する生新な感じを十分こめて、いき／＼と而も自然に話したいものであります。こども達も各々頭の中で豊かに野菜の人物を活躍させる事です。

「田原藤太」 此は梗概を書くまでもないお話、此のお話の山は、どうしても退治出来なかつた百足を、つばきで濡らした矢で射止めた、といふ所であります。此處までお話は息づく間もない程ぐんぐん進展してまゐり、こゝでぐつと抑へられます。こども達も息づまる様な緊張を以て聴き、こゝでホツと安心する様です。藤太と龍王の會話は、藤太は落着いて強そうに、龍王はおびえてゐる者の様に感じなこめ、淀みなく進みたいと思ひます。こどもは話し手から受取るものを頭の中で次々に組立て、ゆくものですが、會話の時に、つゝかへたり、いひ直したりしては、せつかくの樂しさを阻む事になります。

「牛若丸」 小さくても、實力、膽力のある者は、たゞむちやに強い者に勝つといふ點に興味のあるお話であります。

「梅雨の話」とありますが、特別にさういふ童話があるわけではなく、季節の話題としてあげてゐるのです。梅雨の事は、國民學校よみかた三の巻に出てゐるので、此を参考にしたらいかと思ひますが、幼稚園では梅雨の時期に簡単な晴雨の表を毎日つけておき、平常より雨が多く、しど／＼と續いて降る事を示します。そして、その雨の爲に、大事なお米の植ゑつけが出来る事を教へ、

又此が濟めばからりとした夏の來る事を知らせて、夏の楽しみを待ち望ませる位でよいかと思ひます。

「馬の頭」 此はおぢいさん、おばあさんと住んでゐる冬子といふ働き者と、秋子といふなまけ者が、おばあさんのいひつけて木の實を探りに行きます。秋子は冬子の實の澤山入つた籠を横取りして自分が探つたもの、様に装ふのです。すると、おばあさんはもど／＼嫌ひな冬子を捨て、了ふといひはります。おぢいさんは仕方なく、馬車に冬子を乗せて森の中に捨て、しまふのです。すると、馬が頭でとん／＼と扉を叩き、冬子に開けさせ、いろ／＼用事をいひつけます。冬子は快く聞いてやります。最後に馬は、右の耳から左の耳に冬子をくゞらせて綺麗な子にしてやるのです。それを見たおばあさんは羨しがつて、秋子も同様にさせますが、秋子は馬のいふ事を聞かぬ爲に遂々汚くなつてしまふといふお話です。原文に就いてよく讀んで頂けば分りますが、馬との對話が冬子と秋子との場合對照的になつてゐて面白く、殊に馬の耳をくゞるとか、全體の構想が一寸奇抜で興味があります。此は全く、いゝ事をした時にはいゝ報ひがあり、悪い事をすれば悪い報ひがあるといふのを諷したお話ですが、全體の運び方が思ひつきの爲、それ程露骨でありませぬ。話す場合には決して、だから悪い事をするものではありません等といはぬ事です。こどもはこどもなりに理解出来るのですから。

「七匹の子山羊」 グリムの代表的な童話です。グリム童話の價値の一つには、ゲルマン風の自主獨立、剛健敢爲の精神が含まれ

て居り、教育的利用性に富む、といふ事が擧げられて居ります、此の物語も、明らかに此にあてはまるものです。母山羊が子山羊をどういふ風にして、狼から救つたか、その心の碎き方、やり方、全く剛健敢爲であります。始めて聞くこどもは、母山羊が狼の事を豫め教へて置く爲に狼の出現を心待ちにし、狼が母山羊を装つて来る所に軽い快い恐れと興味を起し、遂ひに食へてしまふ所で絶頂に達します。扱、母山羊が歸つて来たのでどうなるでせうかと、こどもは大いに期待します。すると母山羊は敏で狼のお腹を切つて子山羊を救ふので、こども達はやれ／＼と安堵し、更に狼が石を詰められた爲水中に墜ちて死ぬ所で又氣持が高まります。此のお話は談話だけでなく、發展させて、人形芝居に見せたり、又子ども達で演習させてもよろしいと思ひます。こどもは他のせりふは忘れたり、ぬかしたりしても、以上に擧げた點は必ず觸れてゐます。そして、こどもながらも狼の地聲は若々しくしたり、母山羊を装ふ所はやさしくしたり、仲々技巧を凝らします。私達もそんなつもりで、餘り恐れを抱かせぬ様注意しつゝ、進めたいと思ひます。

「三匹の子犬の話」時計を知らぬ三匹の兄弟犬のお話です。三匹共時計がたゞチクタク／＼としかいはぬのでもどかしがり、ポーン／＼と時を打つので驚くのです。それを聞いた母犬がそれは時計といふもので便利なものだからといつて、三つはおやつ時間とか、五つはお夕飯などと教へます。そこで三匹は始めて安心するといふお話ですが、此は時間、時計についてこどもに興味を抱

かせるよいお話かと思ひます。チクタク／＼のくりかへしはこどもにとつては愉快な事であり、教育的母犬の説明もわざとらしくなく自然であります。此は六月の末の方に話す事に保育案ではなつてゐますが、時の記念日のあたりに話しても適しいと思ひます。

以上のお話は全部、日本幼稚園協會發行の談話集に出てゐるので、原文に就いて是非一度讀んで頂き、その面白さを味ひ、こども心に徹する一助にして頂きたいと思ひます。尙お話を聴く態度は大體出来て来たのですが、いたづら等せず、靜かに聴く習慣をつけたいと思ひます。それには、話し手は、その背景がこども達の氣を散らさぬ様な場所を選んで、掛けるなり、坐るなり致します。そして凡てのこどもをよう／＼見える様にいたします。話し手は豫め十分にお話の筋、性格等を呑込んでおき、極くゆつたりした氣持で子供に話し、大げさな身振り、聲色はよした方がよいと思ひます。こどもは元氣に遊ぶと共に靜かにお話を聴くのが好きです。あの話し手の心にくひ入る様な熱心な可愛い、目、口もと。あのこども達の爲には私達はお話の眞意に深く徹しなければならぬと思ひます。そこに自らよりよい話し方が出来て来る事でせう、

手 技

及 川 ふ み

欽仕事

果 物 (いちじく)

時節柄果物の材料を限定しても容易に手に入らなかつたり、又

價の點であまり高價なものなどは材料として用ひられないから適當のものでよい。果物の形が簡單で、幼児が容易にその形や色を看取する事の出来るものであればよいのである。今かりにこゝに一例として、いちごを擧げておく。

莓は鉢植として庭の狭いところでも、保育室の窓際で、手軽に栽培出来るものであるから、自由畫の材料や鉄仕事材料として早くから心がけて作つておくことよい。鉢植のない場合には莓のへたは出来るだけ色も形も損じてゐないものを選びたい。いちごの可愛らしい形や色を充分に觀察させて、幼児自身だけに形をとりせ切りぬかせて作ることにする。

莓の形を作るときの注意としては、形をあまり小さくしにくい様に特に氣をつける。

汽車

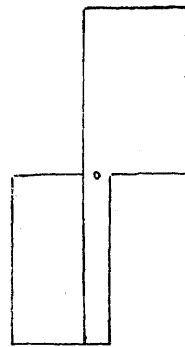
黒、茶、鼠などのじみな色を一色で、長方形で簡単な客車の形を作つて數臺の車輛と機關などを作ることにする。車は黒のクレヨンでかゝせるし煙や線路も幼児自身でクレヨンで畫くとよい。

製作

プロペラ風車 材料古はがき

古はがきを一センチだけ幅をづらせて、縦に二つ折にし、さらに幅の廣い方を中央を一センチ幅に折りかへして開く。はがきの縦の半分七センチのところを中央の一センチを残して、左側は上の半分、右側は下の半分を切り落す。羽になる二つの部分は赤或は黄色にクレヨンで塗り心棒になる部分は又これ等の色と配合の

よい色で塗る事にする。はがきの裏表ともにクレヨンで色をぬるとよい。



てんとう蟲の車

別圖でてんとう蟲の翅は地色を黒くして、圓いふを赤くしてもよいし、又反對に地色を赤くして圓いふを黒にしてもよい。

この頭庭にてんとう蟲がよくゐる時季であるから出来るだけ幼児に實物をよく觀察させて色をぬる參考にするとよい。

臺、古はがきを綠色に全體ぬつて、縦を二センチ半づゝの高さに、兩横を折つておく。てんとう蟲の兩側のノリシロのところをみざり色に塗り、臺の側面に合せてはりつける。

車ホルルの空箱などを利用して直徑三センチ位の圓を作り左右の車としてヒゴを通して心棒としておく。出来上つたところは綠色の草の上にてんとう蟲があるいてゐる形のつもりで作る。

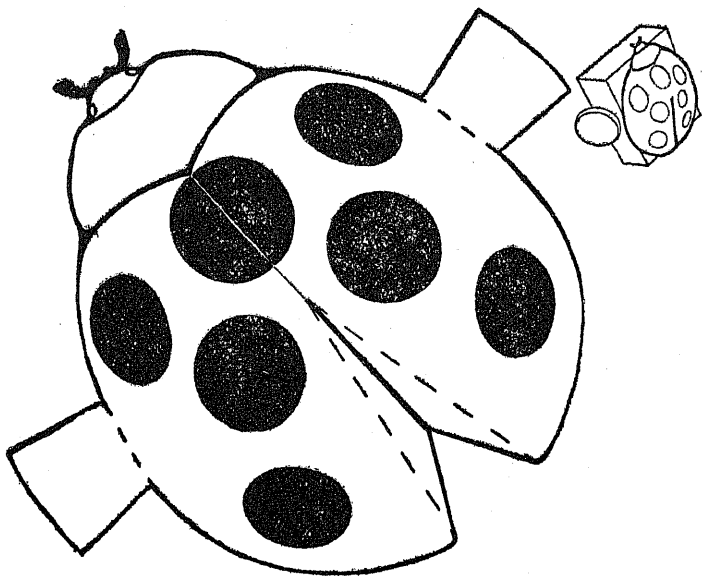
てんとう蟲の車

別圖のてんとう蟲のノリシロの部分のをぞき茶色にぬる。殻の横のノリシロの部分を綠色にぬるのはてんとう蟲の場合と同じである。きりこみを入れてノリシロを重ねてはり合せ笠の形を作る。

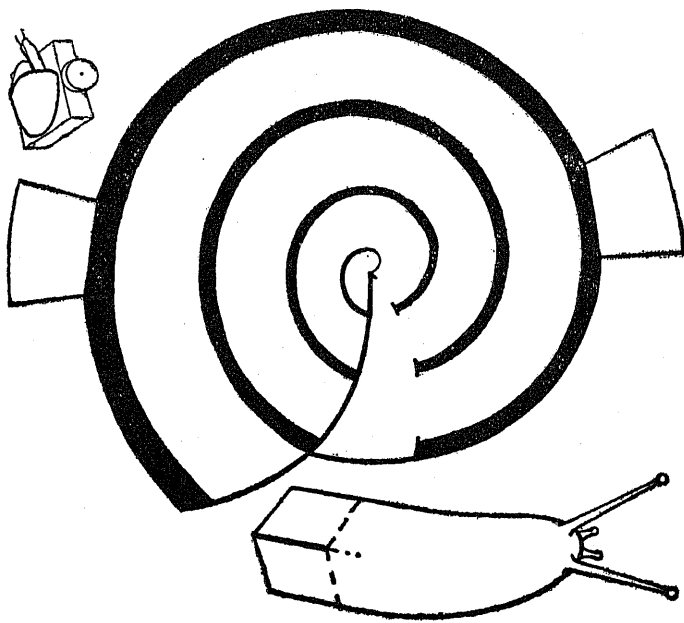
中央に穴をあけて、梧桐の實で上下をとめる。

この中央の穴はコマを作る場合とことなりゆるくあけておくとよくまはる。

てんとう蟲の車



でんでん蟲の車



頭のノリシロの部分のをぞきあと全體を黄色にぬる。下にある線を切り、開いて殻にはりつける。と立體的になる。

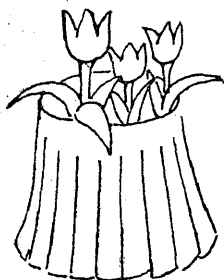
古はがきで臺をつくり、ボール紙で車をつくる事などいづれもてんとう蟲に同じ。

以上のてんとう蟲の車、でんとう蟲の車はいづれも二回或は三回の仕事の材料として充分であるから一時の仕事の分量を多すぎない様にして出来るだけ幼児たちに仕事を丁寧なさせる習慣をつける。

花かご 材料 古はがき

花かごも材料は古はがきです。はがきの全面茶色のクレヨン

花かごの圖



で塗る。幼児には色をぬらせて、かごの切り目の線は保母が引く事にする。

色をぬつた面を内側にして、縦を二つ折りにして、輪でない方を、半センチのこして、半センチづつの間隔に線を畫いて幼児た

ちには線を切らせるだけさせる。この際に多少切り方が拙くて線の外にきりこみはづれてもよい事にする。

輪の方を下にして、上の部分に別にノリシロとして紙を入れて上口を輪になる様につなぎ合せる。

畫用紙に自由畫として花を畫かせて、切りぬかせて三本位つづつて花かごの前後にはりつける。

これまで紙を材料として鉄仕事と製作との二つに區別したのは、鉄仕事は簡単に紙を切つて平面的にはるだけの事であるが製作は形を畫き、色をつけ、これを切りとつて、はり合せ組み合せて、一つのものを作るといふ意味である。

粘土

舟

普通の粘土を材料として作る。年長組の幼児の作った舟でも、保母の作った舟でもよいから自分で形の作れないものゝために参考にする様に出しておく。繪本の船や、おもちゃの船は幼児がまねて作るのには少し形、その他が複雑すぎて直接参考になる事はむづかしいから出来るだけ簡単な形をみせるとよい。

小さい國旗を作らせて舟にたてる。

果物 いちご りんご

果物の粘土製作には出来るだけ實物を用意して幼児にその形、その色などを充分に觀察させながら作らせる事である。

以上 鉄仕事 製作 粘土製作などの手技の材料の數種だけを擧げて見たのであるが、特別に一組の幼児たちに共通の材料とな

るものゝみを数種とり出しておつたのである。六月にもなると自由畫も數多く畫ける様になり、飲食事や粘土製作にもおひ／＼に興味をもつて来て、幼兒自身でも自由材料としていろ／＼のものを畫いたり作つたりする様になる。とり擧げた材料以外にしばしば自由材料で數多く畫かせ、數多く飲食事もさせ、粘土製作も度々くりかへすとよい。

こゝに又くりかへしておくが幼稚園の手法は一つの仕事に熟練するといふ事よりもいろ／＼のものを作ることを主眼として、幼兒たちを導かなくてはならない。物をつくる興味を覺えさせる事が第一肝要なことである。

誘導保育

おもちゃ屋

菊池ふじの

入園當時のごく簡単な製作として、輪つなぎ、首飾り、こま等を作るのであるが、これ等の製作品を持たせて歸すのは入園したての頃だけであつて、後々まで出来上る毎にばら／＼に持たせ歸すのは何となしに教育良心が告めて苦しいのである。そこでこの簡単なそして澤山な製作に目的性を與へる爲に、おもちゃ屋とする事が一番適當である。入園當時は何もかも夢中であらうから、最初は作つたらみんなのを纏めて飾つておき、少々落ちつきの出来た五月の末頃にみんなにこの目的を話して會得させるのである。取りかゝるのは入園最初からであるが、つまり目的を持つのは丁

度保育案掲載の五月の末頃が適當であらう。

計畫 今までに出来上つてゐる三、四種のおもちゃを飾るべきお店をつくる。それには、真中をあげて兩側に机を並べ、この机に奥の方を高く店先の方を低くといふ工合に傾斜をつけるとお店らしい感じが出る。この机に、出来上つた品物をお店らしく並べる。製作するおもちゃの種類はいろ／＼と澤山あるであらうけれど、この時代に、繼續時間の餘り長いのはだれ氣を持つ様になるからいけない。先生としては、あれも作らせ度い、これもこの中に加へ度いと思ふものが澤山あるが、この度のおもちゃ屋には、手法の方にくわしく述べられてある輪つなぎ、こま、首がざり、風車、軍艦、てんとう蟲、でん／＼蟲位の種類にして、目的を持つてから二週間位の中に、活潑に、まつさとやつてしまつた方がいい。賣買遊びもごく簡単に、數の計算といふことを考へずに、丸いお金一つ渡せば一品を買つてくれるといふ工合にする。折紙で財布を折らせて、これに各自作つたお金を入れさせておくこと喜ぶものである。

期待効果 入園當時のごく簡単な製作に目的を與へるといふことが第一の期待効果であつて、そして又この案の動機であると言つてもよい。手法としての効果は言はずもがな。社會生活の興味、陳列することによつてものゝ整理の觀念が微かながら養はれるであらうし、おもちゃ個々のものゝ觀察或はお店の觀察も微々たるものではあらうが助けられるであらう。

繼續時間 前述のやうに二週間位。

田植 かはずの鳴く五月頃の苗代。そこには三、四寸位に伸びた稲の苗が密生してゐる。そしてこの苗代の中央にはランプが立てゝある。ランプは石油を盛つた盥の中に立てられてゐるのである。夕方からこのランプには灯がともされる。すると蛾(ず)る蟲の成蟲は灯に集つて来てこの盥の石油の中に落ちてやがて死ぬ。これは稲の害蟲驅除法の一つ。田舎の小學校低學年は苗代の頃になると毎日先生に連れられてこの蛾を取りに行く。百匹取ると一錢切手の貼られた貯金通帳を學校からいたゞく。次の百匹取る毎に通帳に一錢切手が殖えてゆく。蛾の卵の生みつけてある葉は、五十取れば一錢切手が貼られるのである。田舎の子供は、こうして、幼にして勤勞作業の一部へ參劃するのである。又こんな記憶も蘇つて来る。兩上りの道の泥を裸足でこねてどろ／＼にする。道端の雜草を抜いて来てこのどろ／＼の泥に差し、田植だなどゝ言つて遊んだ幼時の事。こういふやうにして田植を始終見て育つた田舎の子供なら、田植遊びといふのはきつとするであらう。けれど都會のやうに、米のなる木さへも知らない人の多い中で育つた子供には、この田植といふことをさせやうとしても無理なこと。そこで、田植の頃に都會の子供を郊外へ連れ出して實際の田植を一度見せ度いものである。尙ほ繪などによつてこの觀察を強め補ふ。更に強い氣味ではあらうけれど、幼稚園で誘導して、田植をやつて見る。

計畫 砂箱、或は砂場の砂を平らにならしておく。こゝへ園庭の雜草を抜いて来て、苗を植ゑるやうに二三本つゝまどめ少々

間隔をおいて挿す。或る廣さを雜草の苗で埋める。如何にも田植らしい感じが出るものである。

期待效果 微かながらも産業勤勞への心づかひが期待出来るであらう。二には觀察。實際のを見れば一層明瞭。お話と繪などによつて語られればそうはつきりした印象も得られないであらうが、おぼろげな觀念が得られるであらう。

繼續時間 出来れば一週間位はこのまゝ保存して置き度い。共同の砂場ではそうもいかないであらうけれど。

外へ外へ

——廣い自由な遊び場と、新鮮な空氣と、充分な日光とを、子供の身體の立場のみから讚美するのは未だ足りない。吾人は寧ろ子供の精神の眞の發達の爲に、第一缺くべからざるものととして此の三つを要求する。わけても快活にして、清潔にして、溫雅なる子供の性情の發達の爲に、何よりも無くてならぬものは此の三寶である——

——幼稚園雜草より——

六月の園藝

— 幼稚園の用意 —

大 岩 金

一、挿木

常緑樹の挿木

ツバキ、サザンカ、チンチャウゲ、クチナシ、マサキ、カナメ、ケウチクトウ、アチキ、ヤツデ、等大方の常緑樹はこの六月下旬から七月にかけて挿木すればよい。

挿す枝は前年生のよく充實したものを十糎から十五糎位の長さにさり、切口はなるべく廣くなるやうに斜切にする。切つた枝は直挿床に挿すか、一度清水中に浸しておいて全部用意が出来てから挿す場合がある。いづれでしても切口を乾かさないうやうにする事が肝要である。

尙丁寧にする時には粘土、又は赤土で切口を覆ふ玉挿にするこ一層活着の具合がよい。

挿す場所は日増暑氣に向ふのであるから、半日蔭地を選んだ方がよい。

その外アヂサイ、ウツギ(ウノハナ)等の挿木をしてもよく活く。アヂサイは天挿をいつて枝の先端を五、六糎に切

つて使ふこ活き易い。然し此頃は花の咲いてゐる時期であるから花のない枝で今年伸びたものの充實した部分をさるのである。

又春播した草花の摘心したものや、ゼラニウム、アルタナンセラなども此頃挿すこよい。

二、種子取り

春花壇に植ゑた草花の種子を雨の合間くりに採つて乾かして秋の播種時までしまつておく。

例、キンセンカ、サンシキスミレ、ヤグルマサウ、ハナビシサウ、ムシトリナデシコ等。

三、球根の堀上げ

ヒヤシンス、チューリップ、スキセン、トリテリヤ等春咲の球根類の葉が枯れて来るから堀り上げて母球の廻りについてゐる子球を離して必要なものを丈を日蔭乾にして秋の植込時まで風なごに食べられないやうに仕舞つておく。

四、病蟲害豫防驅除

前月より一層病蟲害になやまされる事が多いのであるから注意して豫防驅除を怠つてはならない。

五、その他

春播草花の移植、摘心、支柱立、施肥、除草なき今月もなか／＼に多忙である。

六、蔬菜に就て

四月に播種した菜豆がそろ／＼收穫出来るやうになる。

トマトは莖の伸びるにつれて支柱に結びつけ中心丈を伸ばして脇芽は絶えずつみ取るやうにしないさいいつの間にか枝が込み合つて始末が出来難いやうになつてしまふ。

馬鈴薯も丈が四十糎以上にも伸びて倒れるやうになれば摘心してやり、又花が咲いたならばそれもつみ取つてやると尙更よいのである。尙この頃になる薯も出来、油斷する薯が地上に表はれるやうになるから土寄をして薯は常に土中に埋つてゐるやうにする。

ツルナ、イチゴの收穫が出来る。

イチゴの收穫の終つたものは下に敷いてある敷藁を取り親株から出る葡萄枝が地中に入り易いやうにしてやる。新に株を増す場合も、もう五年位経つたため更新する必要のある場合には新に葡萄枝を出させるのであるが、是等の必要のない場合には新に出る葡萄枝は出来次第切り取り、親株の勢力を損じないやうにした方がよい。

葡萄枝は親株からかなり多数(十本内外)出、是を伸びるまゝに放任しておけばよく一本の葡萄枝から數株が得られる迄になるものであるが、繁殖用の新株としては親株に近い各々二節位を取つた方がよい。それ故二株位を取つた先は摘んでおきそれ以上伸ばさないやうに始末する。そして新株に葉が數枚出来たならば親株から切り離し、苗床を作つて、株間、條間共に十五糎位にしてこの梅雨期中に假植しておくさい。

莓は夏冬共に乾燥を嫌ふものであるが、殊に苗の植付時に日照が續くミ、灌水に大變手數がかかる事になる。

ツルナは收穫の合間／＼に液肥をやり長く收穫を續けたいものである。

段々に縦に横に育つて行く落花生にも時々灰をやつたり、液肥をやるやうにしやう。

各地幼稚
園だより

三原女子師範學校附屬幼稚園

三原女師附屬幼稚園保姆 山岡 幹枝

本園は大正二年三原女子師範學校に附設せられたものであります。三原市の凡そ中央部、櫻山の麓にありまして、前は間近く瀬戸内海を臨み、四季變化に富める自然に圍れた恵まれた環境にあります。

園兒數 七〇名 園長 女子師範學校長 主事 附屬國民學校主事兼任 保姆 二名

保育料 壹圓五拾錢

組編制は二組とし、進學によつて年少組(五・六歳兒)年長組(六・七歳兒)に分け、二年保育制に致して居ります。

保育項目につきましましては、徒らに舊套墨守、與へられたものにのみよるべきでないを信じ、つまらぬ乍らも自分達で保育主題を選択し配列し、

「皇國の道に則つた保育、而も時代と郷土とに即した明るく逞しい保育」を行ふ様心掛けて居ります。主題は主として生活層によつて配列致しますがその選擇に當つては次の諸點に留意致して居ります。

一、國民的情操を養ふもの

(國體明徴、敬神崇祖)

一、時局認識に適切なるもの

(銃後後援、皇軍感謝、一致協力、堅忍持久、剛健質朴、物資節約)

一、科學的な生活態度を刷致するもの

(時間勵行、整理整然愛好、頓工夫創造、自然愛好)

一、體位向上に資するもの(心身鍛練、衛生保健、清潔整頓)

一、日本的情操を陶冶するもの(明朗快活、純真素朴、莊嚴重厚)

一、大國民たる品位を養ふもの(公衆道徳容儀姿勢、言語動作)

一、基礎的な技能を修練するもの

一、郷土文化の新建設に資するもの

かゝる見地より選擇した主題を、生活層によりて適當に配列し、幼兒のあそびの擴充、生活のよりよき伸展を期して居ります。

本園に於ては、特に自由主義的色彩、知育偏重の臭味の絶滅を期し、皇國の道に則つて時代と郷土とに即した明る

く遅しい教育をなすことを大眼目とし、我國家族制度の本義に基いて園兒の衣食住生活を確立し、更に躰によつて合理的に生活する能力を啓培する様心掛けて居ります。近時國體觀念の培養が叫ばれ又強固な意志力、強力な實踐力の人が要望されて参りました。東亞の指導國家たる我が帝國の將來を擔つて立つべき第二國民の育成に當り、人生の雙葉と言はれる幼兒期なるが故に、國家の一貫せる教育目標に向つて邁進すべきは當然であります。次に本園の實施してゐる保育の一端を申し上げます。

一、登園歸園時に於ける奉安殿の奉拜は保姆と共に皆で揃つて行ひ、一日の報告と御禮を申し上げます。特に奉安殿横からは脱帽無言、門外に出て始めて着帽致します

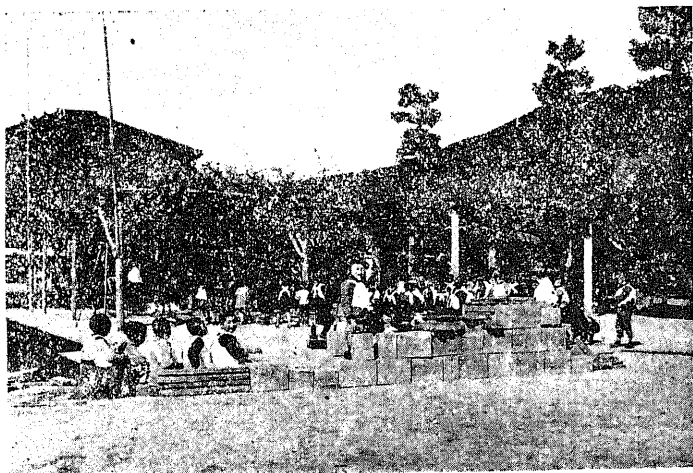
一、會集時の遙拜前にはエプロン洋服の歪曲を正し整髪させ、姿勢を正して後行ふ様注意致して居ります

一、君が代奉唱の態度 幼兒なりとも奉唱の態度は嚴肅なるべきだま信じ實行致して居ります

一、神社参拜 毎月一回は必ず行ひ、尙ほ四大節、事變記念日其他、國家的大祭には必ず参拜致しますが、鳥居よりは一同無言、嚴肅な氣持で神殿にぬかづき二拜二拍子一拜にて心からの祈りを捧げます

一、皇軍への感謝 出征遺家族招待の遊戯會の開催、事變記念日當日戦死者の墓参、出征軍人への慰問袋の發送、

武運長久祈願、食前の感謝の言葉、廢品回收、會集時の時局談話等により常に感謝の生活を送る様注意して居ります



さあさあお乗り

一、強力な身體 従來のラジオ體操がこもする形式に流れ、力ある正しい運動となり難く、幼児に最適でない事を思ひ、之に代へて特殊なる體操を行つて居ります。之は幼児の想像性、模倣性、創造性の活用によるもので、全體を物語的に伸展させ遊びの中に身體各部筋肉の鍛練を行ふ様にし、唯音等にひきづられ音律にのるのでなく、話合ひの形式による遊びの中にも各個各部分に留意して補正しつゝ行つて居ります。時には唱歌遊戲に進展する場合も生じ、「遊びか體操か體操か遊びか」幼児はボンヤリ愉快に過す中に目的の筋肉活動は充分に出來て参ります。又自然を友とし一週に一回は必ず園外保育を致し、鐵砲かついだ兵隊ごつこも自然の山野を背景に思ふ存分くりひろげられ、少しの傷は平氣、石垣でも崖でも力限り攀登、女兒も看護婦となりて從軍、自然のクリークも決然渡河、環境を利用したよりよき體鍛道場は四季常に幼児を喜ばしてくれます。又大東亞戰爭勃發は幼児にも深い感銘を與へ、團體的遊びも年長兒の誘導を得て繼續されて参り、走高飛、繩飛、飛箱、綱引き遊び等きまりを守つて楽しく遊ばれて居ります。「來た順番」にて先を爭ふ事もなく、「強い子供は風の中」にて園庭をはね廻つて次から次へ遊びを續けて居ります。以上保育のほんの一端を列擧致しましたが、最後に本園が特に努力して

ゐます家庭との連絡について方法の一部を申し上げます。何ぞ申しましても、幼兒生活に於て時間的にその大半をしめるものは、家庭であり、家庭教育の補導こそ幼稚園保育と共に考慮されなければならぬ事項だぞ存じます。幼稚園の綿密周到なる計畫と取扱ひは家庭の援助を得て始めて幼兒生活の全き指導となり、社會人としての幼兒の育成に裨益しうるものぞ考へます。殊に幼稚園保育の家庭教育を補ふにあるを思ふ時、その保育内容が家庭及び郷土と遊離しない様留意するは勿論、積極的に幼稚園保育の中に家庭教育を接收し、家庭を指導し協力せしめる様努むべきだぞ存じまして先づ第一に母の會を設置し、毎月一回の參集日には保育參觀を行つた後、幼兒の性行、健康問題、容儀服裝等につき懇談致し保育の新しい出發點も致して居ります。又時には母のための講習會等も開催し、祝日用料理、榮養料理、間食、教育問題等について研究致して居りますが、お母様方からの秘訣料理の公開もあり、互ひに喜ばれてゐます。尙、夏休み以來は、母姉に依頼致しまして生活カレンダーの記入を續けて居ります。左記の様な表を配布致しまして、母子一體となつて生活の向上に心掛けていたゞいて居ります。が、子供は勿論、家庭全體の寮園氣を變化することも生じ非常に重寶がられて居ります。殊に「お母さまメモ」に

◎保育の實際

午前中の行事

昨年夏の一日(始業午前七時—午後五時)

- 一、朝の出迎 朝の挨拶 容儀の調べ洗面の出来てない者には手顔口すゝぎ頭髮をきれいにする、各兒に手拭を安全ピンでつける、携帶品は各室に置き整頓せしむ、貯金するものは貯金箱に入れしむ
- 二、衣 替 各兒男兒はランニング、女兒は簡單服に着替自分の服は各自所定の場所へ自分で風通のよい、日當りのよい所の腰掛けに掛ける、汗や、よごれたものは直ぐ洗ひ糊をつけて歸宅までに清潔にして着せて歸らしめる(アセモを防ぎ夜分の安眠を助くる爲に行ふ)
- 三、一同庭園に集まり東方遙拜
- 四、一同ラジオ體操
- 五、其日の特に留意すべき様をなす
- 六、各室へ入室、大神宮遙拜拍手默禱
出席の調べ一日の約束お話、當番を定む、お辨當の準備其他の手傳、砂場用具後仕末
- 七、檢 溫 (毎朝行ふ自由遊びの中に)疾病の早期發見手當、檢溫の結果標準點より以上のもの以下のもの

微熱の續く者(結核性、微毒性の顯はれ)其他

- 八、疾病の手當、濕疹の手當洗眼肝油の服用等
- 九、晝 食 晝食の準備食前の口すゝぎ手洗ひ當番、机拭ひお盆茶碗箸茶くみ副食物の調査(保姆之を行ふ)

食後の口すゝぎ手洗ひ、後仕末

午後の行事

- 一〇、一同自由遊びさ入浴
- 一一、午睡 一時より三時迄
- 一二、年長組自由遊び女子は水遊ミして人形の着物(三十枚餘洗濯して竿ばしになす、水を大切にするため使用後は打水植木のやり水に使用せしむ、其他床上大積木又は砂遊び何れも軍艦の製作に興味を深め、自身が作り上げた物にのり込み、尙ほ飛行機をも製作夫々に、のるもの、航空母艦なき見事に創作する等無我になつて戦争ごつこなぎが始まりそれ〴〵個性を顯はして愉快に遊戯する。
- 一三、早や、おやつ時間となつた、一同手を洗ひ手を拭ひし後で手拭につけた(安全ピンをはつし箱に入れ)手拭を盥の中に入れ、消毒して洗濯すると同時に朝替へた衣服を着替、(ランニングや簡單服を洗濯尙ほ午睡に使用した敷布や、枕のおほひを洗濯(保姆の

手にて)

一四、おやつをいたゞく(濟でから後片付、室内庭園及砂場の用具の整理)

一五、容儀を調べ整容して一同集まり、同町内方面の者を集め保母附添ひ一定の所まで見送りて歸宅せしめる

◎幼児の健康増進上施設せる事項

一、幼児の検温 毎日 五、海人草服用 一ヶ月一回

二、健康診斷 一ヶ月一回 六、肝油服用 毎日

三、身體検査 一ヶ月一回 七、副食物調査 毎日

四、眼の診斷 一ヶ月一回 八、兒童相談所 一週一回

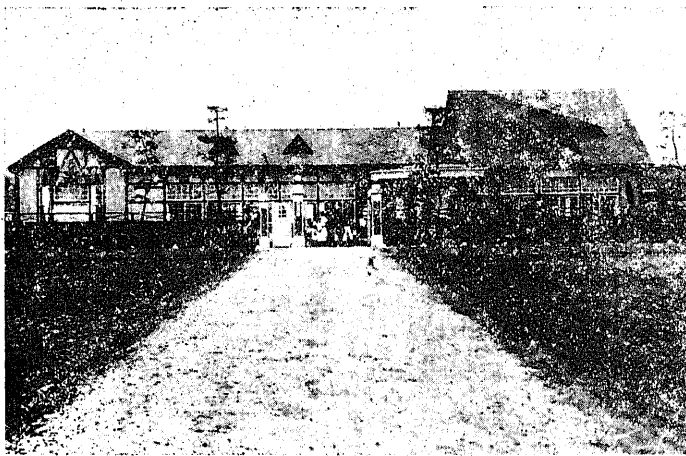
點眼洗眼 毎日

九、郊外保育 天候のよい限り毎日出掛ける、幸に當所の

周圍は野原と田甫に圍まれ、三四町行けば小高き山と平野あり、時々晝食やおやつを持つて出かける、四方の見晴のよい別天地で生活が出来、大きな松の木なきによぢのぼる、まつがさ拾ひ、さん栗ひろひ、雑草摘、兎さんのお土産なきも、ごつさり持ち歸る、途中の小川で目高、さぢやう、からす貝、しめなごをこり持ち歸る。

◎貯金

當所では貯金獎勵をいたして居ります、第一第三日曜は休日でありませうから、一日二錢の保育料ですか



ら四錢は必ず貯金になります。猶事故缺席の場合も貯金になります、殊に當所邊の悪習慣として朝から買食の盛な所でありませうので、なる丈それを貯金にさせて居ります。なほ家庭にも貯蓄心を持つてほし

さに、當所で散髪貯金といふ事を考へ保母の手で子供の散髪をいたします。一度いたせばいくらかの貯金をする事に母の會で約束いたしました爲に、家庭でも大變よろこばれ必ず散髪料として貯金する

様になり、又日々の貯金を月末に郵便局に納め貯金帳を母の會開催の時母達に檢閲させます。互に見せ合ふ事が始まり、勘定日に保育料を納め過分に持参され餘りは貯金といふ工合になり、卒所迄に四五年も居る子供は割合に澤山な貯金が出来、入學の際の入用品は全く之で苦勞せず求められる様になり當所まで大に満足して居り、いさゝかながら家庭との連絡もされて居ると思つてゐます。

◎時局と保育

一、時局の重大性 事變勃發以來第六年を迎へましたが昭和十六年十二月八日宣戰の大詔煥發せられ、輝かしい戰勝の數々に日夜感激の日を送り、かねて待望の、シंगाポールも陥落され限りなき御稜威と皇軍將士の御苦勞にたゞく心から感謝感激いたしてゐる次第であります。併し戰は長期にわたることを覺悟せねばなりません。私共國民は、ほんさうに一大決心をもつてお國を護り、今こそ眞の日本人の、ほんさうの値打を現す時だに存じます。夫は老若男女身分の高下職業の如何によらず、唯お國の爲にお天子様の御爲に心掛けて、それだけの持前の仕事に魂を打込まなくてはなりません、近頃やかましく申されてゐる「職域奉公臣道實踐」はそれでありませう。

自分勝手な考へや行動は決して許さるべきではありません。眞に自我巧利の考へを捨て「公益優先」の強い心構へが必要であるに存じます。

二、保育の重要性と私共の覺悟 さて此非常時局に私共の受持つてゐる幼児保育はどんな役割を持つてゐるのせう。一體、政治、經濟、軍備等何れも大切であることは申す迄ありませんが、各部面を通じて最も根本的な大切なものといへば「人の問題」であるに存じます。而して人を作るのは家庭學校等教育の仕事であります。故に教育は總ての事業の中に於て最も重要な位置を占むるものであります、之教育に従事してゐる教育者の責任の重大であることを自覺せねばなりません。殊に保育者は最も基礎的なものでありまして保育の成績如何は子供の將來に非常な關係を持つことは御承知の通りであります。而して保育の成績はかゝつて保母の人格努力修養の如何によるものであります。

第一保母の心構へが必要なわけであります。

尚ほ一二追加して私共の最も注意すべき事柄について申上げて見たいに存じます。

(一)如何に幼少な子供でも日本人である以上必ず日本人としての尊い日本魂を持つていゝ筈であります。こ

の幼児の心の奥底に持つてゐる『日本魂』を呼び起して正しく育てる。これが保育の中心であります、ない物を外からつけてやるのではない内に持つてゐるものを正しく伸すのであります。そうして魂の教育は口先きや手先の形式では實は十分なし遂げることは出来ません、保姆の立派な魂ミ幼児の魂の萌芽ミが觸れ合ふ所に初めて魂の教育が出来るのであります。即ち人格ミ人格ミの接觸が肝要であります。私共の魂は幼児の魂に深く喰ひ込んで、私共の魂は何時迄もミ其幼児の魂の中に存在して行く、かくの如くして私共のつき込んだ精神は、子供へミその子供へミその子供へミ傳つて行くものであります。かく考へますミ私共の仕事は未來永却生きて行く、私共が此世を去つてこの魂は子供に生きて續く筈であります。

(2) 修養の必要

こんな風に考へて來ますミ私共がまだミ修養の足りない事に氣がつくミ共に、脊に汗の流れる感じがいたします、愈々自分を研くことを忘れない様にして御奉公をいたし度ミ存じます。以上赤裸々に一日の生活振りなり常に考へて居る事を申上げました。是れによつて大體私の所になしつゝある萬事を御推

◎備

考

察下さるごころ存じます。

岡山市に於ける保育園及隣保事業は左之通りで御座います。

- 一、昭 和 館 隣保事業
- 一、岡山博愛會隣保事業
- 一、岡山聖心愛子會
- 一、岡山内田善隣館隣保事業
- 一、宇野善隣館
- 一、南野協會農村隣保事業
- 一、岡山美作自修會若松園
- 一、岡山市立岡山託兒所
- 一、岡山市立第二市民館

	男	女
満一歳未	51.54	51.05
満一歳	50.75	51.48
二一四	50.96	51.42
五、六	52.08	51.49
合 計	51.48	51.33

居るかを詳述しやうと思ふ。

子供達は自分が男であり、女であるこの意識を早くから持つて居るが、それは男は強い者、女は弱い者と言ふ形で持つて居る。アドラーは凡ての人間の究極の意欲は権力をもちたいこの欲望であると言べて居るが、子供も他の子供より優り度いこの欲望を持つて居る。子供の生活で強い者は専ら身體的優者である。處が女兒は男兒に較べて體力や運動性に於て劣つて居る爲に、男兒は強い者として優越を感じ、女兒は弱い者として劣等感を感じて居る。即ち幼兒の性意識は男は強いもの女は弱い者と言ふ力の原理に依つて構成されて居る、此男女兒の強弱感が起る原因は上述の身體的能力の外に教育や躾も關係がある。二三歳兒になるに與へる玩具も男は自動車、女は人形と言ふ風に相違

即ち年齢によつて男女の優劣が變り、全體としては殆んど差が無くなつて居る。故に知的方面には男女兒で差は無く従つて知的教育で手加減をする必要は全くない。問題は主として性格の方面にある。故に茲では性格に就いて、特に其中でも女兒が自分が女である事を如何に思つて

するし、着物の色や形も異なる。又女の子には常に「女の子はもつこおきなしくしなければいけない。お行儀よくしなければいけない」を教へ、男の子からいぢめられても、そんな亂暴な男の子遊びから悪いのですよ、却つていぢめられる女の方が叱られたりする。斯る事から女兒は男兒に對して劣等感や、くやしさを感ずるようになる。斯くして幼時期に於ては女である事は弱者を意味し、茲に女性的性格の最初の礎石が置かれる。

具體的な例をあげて説明しよう。之は幼兒期の憶ひ出の記録から拾つたものである。

「その日の夕方母にその男の子が階段から飛び下りて遊んだ事等話したら、母に女の子はそんな男の子の様な荒いまねをしてはいけないと言はれた。けれどもとても階段を飛降りる事に興味を持つて了つて、家の階段から降りて居た時、母に見つけられて叱られた。母は男の子ならやつてもよいと言つたので男の子が羨ましくて仕方なかつた」。(K.S.)

男兒の様に階段から飛降りられなくても左程大した事ではないが、次の例の様になる問題が少し大きくなる。幼稚園にやる事は子供の社會性を養ふ爲によい事だと言はれる。然るにこの子供は幼稚園に行つた爲に散々いぢめられ、いぢけた子供になり、却つて社會性を弱めて居る。

「子供の最も楽しみ場所となるべき幼稚園を悲しみの爲に去らせた最大の原因は何と言つても弱蟲だと言つていぢめられる事であつた。ブランコだつて弱蟲だから言ふ理由の爲に中々待つてものせてもらへない。滑り臺だつて一番後廻しだ、砂あそびの仲間入りもさせてもらへない。いつも自分が遊ぶ時よりも皆の面白さうに遊んでゐるのを眺めてゐる時の方が多かつた。でもまだこれ位ならいゝ方だつた。時には腕力を誇つてゐる腕白もの達に取圍まれ一人ぼつちで抵抗出来ないのをこれ幸と散々いぢめられ結局は私が泣き出し先生の御訓戒で事が解決するのが常でした。けれども當時この様なひどい壓迫を受けて『今度こそはあの頭を下駄で一々打つてやらう』今度こそ我慢ならぬ、先生に言ひつけて穴ぐらの中にあの子たちを入れてやるんだ』等といふ反抗的な氣持がムラ／＼と起つて来るが、何分向ふは大勢の男子であるのに反し、こちらは一人なので抵抗は出来なかつた。その中いつしかひねくれて来て、男の子に泣かされてもくやしさを反抗心よりも悲しさ情なさの方が先に立ちすぐ泣き出す様になつた。」(M.T.)

たゞ幼稚園に子供をやればよい譯ではない。子供達だけの世界は決して教育的でもなければ、温く柔かい母の懷も異り、意地悪さ、からかひに満ちた小さな戦場である。幼稚園の生活に細心の注意を拂つてやらねば却つて害にな

る事もある。も一つ同じ様な例。

「毎日幼稚園に出かけるのは地獄へ行くようだつた。それは私がいぢめられる子だつたからだ。私は幼稚園の子供達の生活は大人が見る様に、決して單純な無邪氣な樂園ではないと言ひ度い。送つて来てくれた女中が玄關の所で歸つてしまひ、私が一人で階段を登つて中へ入つて行く時は、厭な氣がした。一室に五つ六つの机があつて、一つの机に四五人宛組になつて子供が坐る。私の机の女の子は男の子は机を圍んでの細工物の時間には私をのけて、彼等だけでしゃべり、凡ゆる事を私の悪口を言ふ材料とし、遊戯の時は私を無視した。其中の頭目がAと言ふ男の子で、彼は吾々の上に君臨し私をいぢめる張本人であつた。

或日食事の時になつたので、生徒は辨當を温める棚に殺倒した。私はその群の中で急に頬に熱い痛みを感じた。それが今自分の前をすぎた男の子の坊主頭がぎう／＼頬をこすつたのだと知つた時、男の毛の短い頭つてこんなに硬い痛いものかと思ひ見た驚きで暫くその事を考へて立つて居た。それが男といふものを區別して考へた初めであつた。」(Y.Y.)

男兒のいが栗頭で小悪魔としての男性を意識し始めたのも面白いが、此小悪魔への恐怖は其後の生活に長くつきまゝつて来るから厄介である。

併し凡ての女兒が男兒にいちめつけられて居る譯ではない。中には男兒の方をやつゝける女丈夫もある。次の例は女兒としては例外的なものと思ふが極めて面白い武勇傳であるから引用してみよう。

「若い頃、よく家に遊びに来る同年の男の子がある日砂場で山をつくつて遊んでゐた。その中に彼が苦心してつくつたトンネルが何かを私の指がすべつてうっかり崩してしまつた。その男の子はしばらく私を睨んでゐたがふいに立つて、『おい、女のくせに。あやまれ』と云つた。私は家庭でそんな荒い言葉で物を言はれた事がなかつたし、自分がうっかりした事にも氣づいてゐなかつたのでぼんやりしてゐるが、又おひかけて『女のくせに』と云はれ、あまつさへ、向ふこそ『女のやうに』人の頬をひつかいたのである。よほさ爪をはやしてゐたものさみえて、私の傷は學校に入つてからも長い間のこつてゐたほぎ深くつき、血がリボンのやうにしたつた。私は痛みも痛し、口惜しくもあり、その場でやり返さうかと思つたがふさうんさ計畫的に復讐してやれさいふよい考が浮んだのでその場はだまつて仲直りをして済ました。夜になつて考へるさ、思ひ出されるのは『女のくせに』さいふ言葉である。しかしつらくおもんみるに、その『女を馬鹿にしてゐる』男の子は遊びの時、一度だつて自ら素晴らしい計畫を考へた事もなければ、女の私を

あつさいはせるほぎの楽しい事も見つけ出しはしなかつたでないか。女の私が六つで、ひらがなもABCさへも讀めたのに反して、(私は早熟であつた)彼は片假名さへやつたではないか。高い枝から梅の實を取るのに、いつも方法を考へ出すのは女の私ではなかつたか。かう考へて来るさ、私は斷然彼を輕蔑する氣になつた。取るにも足りないけちな了見、狭い度量。しかしこらしめておく必要はある。二度『女』を見下げないやうに。私は翌朝、いつものやうに彼をよびよせておいて、青竹でいやさいふ程ひつぱりたい。ひろいダリヤの畑中おひかけまはして。午後、それに氣づいておぎろいた母が、その子の家に詫びに行つた時、相手の兩親にすまなくて二度さそのこぶを見られなかつたさいふ程ひきくたゝきのめした。それ以後、遊びの時も、本を見る時も、彼はいつも女の私の家來さいふ肩書を帯びてゐた。

(I・M)

この女の人は自分は強情で今まで男性に拮抗感や劣等感を懷いた事はなく、却つて常に優越感を感じて居たと言つてゐるが、斯る場合には弱き者よ汝の名は女なりとの言葉は當嵌らず、たのもしい限りである。

幼稚園は併し常に小惡魔の巢窟と言ふ譯ではなく、素晴らしい王子様やお姫様も居る。男の仲間に入つて楽しく遊んで居る女兒も居る。

「幼稚園時代私の心の中にも當然『男の子』が意識された。強ひていへば對立意識でも言ふのであらうが、私の場合には、それは『強者に對する一種の憧憬』もいふべき形をこつたのである。即ち男の子は女の子より遙かに強いものであると認め、男の子に何かしら羨しい様な、讚美する様な氣持を抱いた。同時に自分と同性である女の子達を弱いもの、つまらぬものと輕視する様になつた。その頃既にお轉婆娘、女の子らしくない女の子として定評をうけてゐた私は自分でもそれを認めて、自分は女の子よりもむしろ男の子に近いものであると考へ、しかもそれに満足してゐたのである。その結果女の子遊ぶ様な事は少く、好んで男の子の仲間入りをして戦争ごつこなぎした。男の子たちも私だけは例外として一緒に遊んでくれ、對等につきあつてくれた。これは私にこつて非常な誇りであり、他の子に對して優越感を感じしめた。(K)

男兒の仲間入りするのはよいが、それによつて女の仲間をつまらぬものととして輕視したのでは困る。こゝに既に劣等感が潜んで居り自分だけが女の仲間から離脱する事によつて満足しようとして居る。

次の例はアドラー的よりもフロイド的な例の様ではあるが、この小さなアダムとエバの間に親和的態度の萌芽が見られる。

「末子である關係から隨分早くから幼稚園にやられた。その爲に卒業近くの頃は相當な古株で幅をきかして居た。その幼稚園では上級の組の男の子から一人、女の子から一人選んでお父さんお母さんと呼び、丁度小學校の級長の様なものがあつた。私が『お母さん』に選ばれ、Kと言ふ子が『お父さん』だつた。その關係から私はKと大仲良しで、家が分離れて居たにも拘らずよく遊びに行つたし、彼もやつて來た。幼稚園では大抵彼と行動を共にし、彼がよその子と話して居るのを見て怒つて泣いた記憶がある。子供乍ら彼を獨占したい氣持にかられたことがあつたと思ふ。Kをその頃幼稚園で一番強く綺麗な子だと思つて大好きで、彼もブランコに乗る時等私をかばふ様な態度をした。(I・N)

斯の様に學齡前の幼兒と言へども性的に無關心ではなく、拮抗と親和の兩型を見る事が出来る。併し此頃の劣等感の根據は淺いから家庭の教育等が適當である場合には女兒は自分が女である事を全く意識せずに過してしまふ事もある。

月刊「幼児の母」に就て

五〇

幼稚園の家庭教育指導のはたらきの一助にも、一昨年一月、月刊「幼児の母」を始めてから、もう三年になります。

毎號甚だ不出來ですが、夫でも廣く各地幼稚園の御贊同を得て、月々、保護者へ配つて下さる方が多くなりました。

おんな小さいものですが、従つて内容も簡單至極のもので、毎月一萬數千のお母さんに讀んで貰へると思ふに、大によろこんでゐます。ほんの四頁といふのも、忙しいお母さんの立讀みにもいふ、初めからの計畫で、手にされる方は皆、讀んで下さることを、これが何よりなのです。

就ては、從來の方々は勿論おつゞけ願ひますし、新しい方々にもお願ひいたします。尙ほ、今までは毎月「幼児教育」で御覽の上の註文を本體に願つてゐましたが、もう大體お分り下さいましたことと思ひますし、月々の御申込みは、皆さんの方にも御手數の多いことですから、半年分なり一年分なりまゝ御注文下さるやう願ひます。當方でも印刷部數の豫めきまつてゐるのですが、時節柄必要になりましたのです。それで新しい幼児の入園から新たに御配布の方も多しと思ひますから、四月を始めとして、四、五、六、七、三四月を一期、九、十、十一、十二、三四月を第二期、一、二、三、三四月を第三期としてまゝめ

た方が御便利かと思ひます。一年拂は十一ヶ月分。

申込規程

一、御注文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。

○十部 金貳拾錢（一部金貳錢）

○送料 十部まで三錢 二十以上送料不要

○十部以下の端數はおこしはりします。

一、御注文の節は部數三何ヶ月分といふこと、御送り致す宛名を特にはつきりお書き記して下さい。

一、右御注文のお申込みと同時に必ず前金でお拂込み下さい。本會の振替口座（東京一七二六六番）をお用ひ下さるのが御便利です。

一、お申込みお拂ひ込みは、東京市小石區大塚町東京女子高等師範學校附屬幼稚園内日本幼稚園協會宛。

序に甚だ立入つたことですが、御利用の仕組は（イ）幼稚園が保護者に無料で配布される場合、（ロ）實費を保護者銘々の負擔をなされる場合、（ハ）幼稚園内の保護者會或は母の會等が費用の負擔をなされる場合等、その他いろいろの仕組があらうと思ひます。

充分御利用下さい。

大東亞戰爭必勝完遂

幼児の母



昭和十七年
五月

母の大東亞知識

こうしてゐる間にも、日本軍は次から次へと、新らしい土地へ、海へ、空へ、進攻してゐるのです。どこを占領した。どこを爆撃したと、新聞やラジオで報道せられるのは、主な土地の名だけですよ。その主な地名を地圖にさがして、しつかり覚えるだけでも、忙しいほどです。その他に、どの位いろ／＼の山の名が、川の名が、町の名が、又、海の名が、島の名が、日本軍の手数をかけたり、惜しい血をこぼしたり、そうしては、日本との深い關係になつていつてゐることなのでせう。

それらは皆、お母さんが学校の地理でも學ばず、その後も何んの關心も持たなかつたところですよ。しかし、今日はそのいきません。これからの日本とは、そんな無關係なことでは濟みません。地名としてだけではありません。その風土、住民、産業、文化、それを知らないでは、明日からの日本は考へられないのです。

子ども達は、之れから後、それらの土地のことを、内地の土地のことと同じに、くわしく知り、親しむをもつに委りませう。是非そうさせなければならぬのです、ところで、その子らを教育してゆくお母さんの、その點に就ての知識はどうでせう。若し、若しですよ。それが不十分だったら、今日の日本のお母さんとして足りませんね。そんなことで、これからの日本の子どもを教育出来ませんか。

幼稚園から

○幼稚園には大東亞戰爭地圖がかけてあります。家庭でも、お子さんのよく見へるところに、それをかけて下さい。

○幼稚園では新爆撃、新占領の報道があるよ、その地圖で示して話します。家庭でもして下さい。むつかしい地名で覚えられないのがあつても構ひません。たゞ、こゝでといつて實感的に話して喜び、有り難いことだと話せばいいのです。

○幼稚園では臨時ニュースの大本營發表はどの時間であつても出来るだけ注意して聴くことにしてゐます。家庭でもそうして下さい。分る分らないではありません。それを聴いてゐる私達の眞面目な態度が、子どもに何かを感じさせずに置かないのです。殊にあの、前と後との軍歌の演奏の勇ましきは、子ども心にも一生忘れられない記憶となるでせう。

○幼稚園と家庭との協力。國の大切なことは決して一方だけでしないこと。

保育といふこと

倉 橋 惣 三

□幼稚園は楽しいところと、前の號で、お話ししました。實際、子どもさん達にとつては、たゞもう楽しいところであり、そうでなければならぬのです。幼稚園はためになるところだ。どうぞ仕込んで下さい。なご、若し子どもが考へたりしたら、それこそ、とんでもないことであります。

□しかし、幼稚園の方としては、子ども達を樂しませてゐるだけではありません。樂しませなければ幼稚園ではありません。樂しむだけでは、幼稚園の目的ではありません。そこでは、幼穉園の目的ではありませぬ。そこでは、れつきとした保育をしてゐるのです。

□さて、その保育とはどういふことなのでせうか。國民學校からは教育といひます。幼稚園でも、教育には相違ないのですが、特別に、保育といふ言葉が用ゐ

られてゐます。幼稚園ばかりでなく、幼児期の場合は一應皆保育といひます。それはどういふ意味なのでせうか。

□教育といつても少しも差支へないのですが、教育には中學校の教育もありますし、大學の教育もあります。幼稚園が、それと同じ苦はありませんが、若し同じに考へられて、幼稚園でも、教育の名で、授業や教授の形が行はれたら大變です。國民學校の教室と同じでも大變です。そこで、教育は教育でも、幼児の場合は當然ちがふところがあることを、その特色を忘れさせない爲に、特に保育といふのです。

□つまり、教育は目的として、ちやんとあるのですけれども、それを直接にといふか、露骨にといふか、そのまゝにといふか、教育としてあからさまな形で

榮養 子供向きお菜

厚生科學研究所
國民榮養部 佐々木理喜子

新緑の匂しい五月になりました。筍や青い豌豆が私共を喜ばせてくれます。武者人形を飾つた御節句の御馳走には、手近な材料で工夫して見ませう。

【1】鱈のから揚げ

材料 小鱈四五瓦 油五瓦 大根二〇瓦
人參一〇瓦 パセリ少々 以上で蛋白質
八・八瓦 熱量一〇〇カロリー

作り方 之れはお頭附の魚の代りで、小鱈がなければ、鱈でも結構に出來ます。頭はつけて臍物を取り、身の兩側へ斜に切目を一つ入れます。薄鹽を振り、揚げる時に片栗粉があれば、少量をまぶします。大根、人參は卸して混ぜ甘酢をかけます。皿に魚を盛付け、其の上に形よく卸しのせ、パセリを添へます。パセリの代りに莢豌豆でもよろしい。

【2】筍めし

行はないのです。もつとほんとうをいへば、教育としてのあからさまな形では行はれ得ないのです。

□第一まだ幼い。か弱い。自分で自分の生活の始末が出来ない。そこで、先づ何よりも、その世話がゆき届かなくてはなりません。そのゆき届いた世話は、そのことゝしては教育といつた諱のことでもありません。たゞどこまでも、親切懇切な世話です。これはつまり、教育といふよりも、子どもの現在に對する愛護です。が、そうした世話だけなら、子ども好きなら誰れでもする。子ども好きでなくとも、子ども係りなら誰れにでも出来る。それを、幼稚園の先生は、そうした世話のなかで、教育しやうとするのです。

□次に、幼い子らは、何よりも彼によりも、遊びが先づ第一のことであります。そこで幼児を楽しくしてやるには、存分によく遊ばせることに用意がなくてはなりません。その爲には、幼稚園の先生は先づ自ら幼児達の心からの遊びの相手にならなければなりません。そして互

に、殆んど夢中になる程、熱心に遊ぶのです。ところで、これも、たゞ子どもといつしよに遊ぶだけなら、何人にも出来ます。それを、そうした無邪氣な遊びの中で、立派に教育してゆくのが、幼稚園の先生の心です。

□つまり、世話と、遊びとの中で、それを離れないで、即ち、教育だけを抽き出したしかたをするのでなく、謂はゞ、いつのまにかしてゆくのが保育です。

□その爲には、世話と遊びの中で、教育の機會を見のがさぬこと、それを巧に指導すること、又そういう機會の出来るやうに誘導すること、そういうふ點で、幼稚園の先生は絶えず、心を働かせ、氣を配はり、意を用ゐてゐるのです。その骨折りは、教育を教育として、それだけでしてゆく學校の場合よりも、却つて大きいといへませう。心なき人が傍から見ただけでは、いつ、どこで、どういふ教育をしてゐるのか分らない位ですが、そこにこそ、保育の妙味があるといふものです。

材料 筍四〇瓦 白すばし一五瓦 人参二〇瓦 剥豌豆二〇瓦 油三五瓦 以上で蛋白質八・二瓦 熱量九八カロリー

作り方 筍は軟く茹で薄く小さく刻みます。人参は短冊に切り、剥豌豆は鹽茹にします。筍、人参を油で少し炒り、お湯を少量入れ、砂糖、醬油、鹽で程よく味付け、これに、白すばしと豌豆を入れて、火をとめます。汁氣を少く、これを御飯に混ぜます。

【3】豆かこ(お八つ)

材料 馬鈴薯八〇瓦 メリケン粉一五瓦 砂糖一〇瓦 剥豌豆少々 以上で一五四カロリー

作り方 馬鈴薯を蒸して潰し、メリケン粉と混ぜ程よく丸めて茹でます。馬鈴薯は潰したのを取分けて置き、砂糖を加へて餡を作り、お團子を包みます。剥豌豆を茹で、此の餡の上に形よく押しつけます。一人分三個位にします。

五月の衛生

醫學博士 齋藤文雄

□青葉の空に矢車がからからと鳴り、真赤な鯉のぼりが思ひきりはためいてゐる此のころの爽やかさ。虻や蜂のうなりを聞いて御覧なさい。まつしぐらに風をきつて飛んでゆくあの音は全く健康そのものです。五月の衛生なんて書くのも憂鬱な位です。

□五月といふ月は温度から申しまして湿度から申しまして、所謂快感帯の真中にゐるといふ事ですので最も健康に適した時であります。随つて病人も餘り出る事ありません。ですから今月は寧ろ積極的な鍛練の上の注意を申し上げる方がよろしいかも知れません。

□今月はどうしても家の中よりは外の方がよくなります。着物は朝お家を出る時に着たまゝで一日あますと日中は汗をかきます。日の中は、殊に運動してゐる時には薄着にいたしませう。運動が済んだら、汗をふいて又もと通りに着せてお

けばよろしいのです。

□遠足の時に皆な水筒を持たせるのは大變よい事です。子供はよく水のみますが、實際身體の割合に大人よりは遙かに餘計水が必要なのです。ましてや汗でかきますと、身體の表面積も大人より比較上大きいのですから、かなりの水分を消したいします。水筒が要りますのは當り前なのです。尚ほ非常に汗をかきますと鹽分も澤山に消したいします。ですから遠足の時に少量の食鹽を持たせてやる事も大變いゝ事なのです。汗をかいてのあと、大抵は午後の時間等には一寸なめさせておきますと疲れ方も大變遠ひます。

□遠足だからといつて色々喰べ物を餘計持たせるのは悪い事です。朝は澤山喰べさせて出してあげて下さい。あとは子供の疲れの程度に平行して、消化のいゝものを、しかも水分を多くして軽く與へ

る様に工夫いたします。身體が疲れた時は、手足の筋肉が疲れるだけではありません。消化器の働きも鈍くなつてゐるものなのです。ましてや飴玉やかき餅等絶えず口にさせておきますと、尙更胃腸の疲れは激しくなるのです。運動したあとには澤山の熱量が必要では無いでしょうか。御尤もです。それは勿論です。但し一晩ぐつすり寝込んで、その翌日から充分な熱量を與へる様にいたしませう。

□冬の間はお風呂は二日おき、三日おきでも浸ぎがつけました。然しこのころの陽氣に遊びの激しいお子さんはどうでせう。とてもこれではやり切れません。お風呂のない日は手足は勿論、身體も、湯を浸した手拭ひでふいてやらなければなりません。

□今月は健民運動の一つとして兒童愛護の實施期であります。せめて吾が子の體重、身長、胸圍等測つて記録をとつておきませう。

○健民運動 兒童愛護

○昇る日の本子供は寶

○強く正しく愛らしく

これが今年の標語です。本當に昇る日の本にめぐり合せた子供たちは幸ひであります。

キンダーブック改題◇月刊幼兒繪雜誌◇

觀察繪本 ミクニノゴドモ

お子たちの保育に——時代は要望する



幼稚園に託兒所に家庭に、幼兒保育の重要な一役を擔ふ繪本を。

明るい面白さ、正確で健全な繪本を「強い日本」の「強い子ども」の爲に。

大東亞共榮圈確立の逞しい指導的意慾を感つた、力強い繪雜誌「ミクニノゴドモ」を。

觀察繪本「ミクニノゴドモ」の編輯は次の陣容を整備してゐる。

- 倉橋惣三先生、岸邊福雄先生、清水良雄先生、西條八十先生、小松耕輔先生、三田谷啓先生、
- 西村真琴先生、及川ふみ先生、小川正道先生、和田實先生、
- 高崎能樹先生、土川五郎先生、久保良英先生、久留島武彦先生、赤羽吉子先生、關寛之先生其他十數氏。

毎月二十七日全國書店一齊發賣
一冊 定價 金三十五錢

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
（毎月）

昭和十七年四月二十八日印刷納本
昭和十七年五月一日發行

（停） 定價 參拾五錢

株式會社 日本保育館

本社 東京・神田・二町保神 電話(33) 三六六二番
 支店 大阪・東區・後備町五 電話(24) 三八九七番